

Annual Report 2011

JUNIOR CHAMBER
INTERNATIONAL OSAKA

The Creed of Junior Chamber International We Believe : That faith in God gives meaning and purpose to human life; That the brotherhood of man transcends the sovereignty of nations; That economic justice can best be won by free men through free enterprise; That government should be of laws rather than of men; That earth's great treasure lies in human personality; and That service to humanity is the best work of life.



凛々しいまち大阪の実現！
～為すべきことを為し、共に新たな歴史を刻もう～
全ては未来のために



社団法人大阪青年会議所

Annual Report 2011

JUNIOR CHAMBER
INTERNATIONAL OSAKA

CONTENTS

- 2 青年会議所とは
- 4 理事長所信
- 6 理事長あいさつ（2011年度を振り返る）
- 8 専務理事あいさつ（2011年度を振り返る）
- 10 理事長 × 専務理事放談
- 12 役員あいさつ
- 16 大阪市長コメント
- 18 2011年度 大阪 JC の活動
- 20 東日本大震災 救援活動報告
- 24 OSAKA キャッスル☆ハッスル!!
- 26 2011年 日本と世界の出来事
- 28 2011年度 組織図&各委員会の事業名
- 30 地域資産確立室
- 31 揺るぎない資産確立委員会
- 33 世界連携推進委員会
- 35 大阪的外交推進委員会
- 37 民意主導推進室
- 38 未来選択実践委員会
- 40 民意確立委員会
- 42 「凛々しい民」創造委員会
- 44 協育推進室
- 45 共感教育実践委員会
- 47 経験則継承委員会
- 49 潜在力開発特別委員会
- 51 大阪プレゼンス確立グループ
- 52 存在感発信委員会
- 54 総務広報特別会議
- 56 OJC フォーラム
- 57 会員大会・卒業式
- 60 広報活動・報道記録
- 62 2011年度卒業理事座談会
- 64 編集後記



社団法人大阪青年会議所

青年会議所とは

1949年、明るい豊かな社会の実現を理想とし、責任感と情熱をもった青年有志による東京青年商工会議所（商工会議所法制定にともない青年会議所と改名）設立から、日本の青年会議所（JC）運動は始まりました。共に向上し合い、社会に貢献しようという理念のもと、1950年には大阪青年会議所が国内で2番目に創設され、日本JCという国家青年会議所を設立するための重要メンバーとして関わっていきまし。また各地に次々と青年会議所が誕生。1951年には全国的運営の総合調整機関として日本青年会議所（日本JC）が設けられました。現在、全国に青年会議所があり、三つの信条（トレーニング「個人の修練」、サービス「社会への奉仕」、フレンドシップ「世界を結ぶ友情」）のもと、よりよい社会づくりをめざし、ボランティアや行政改革などの社会的課題に積極的に取り組んでいます。さらには、国際青年会議所（JCI）のメンバーとして各国の青年会議所と連携し、世界を舞台として、さまざまな活動を展開しています。

大阪青年会議所の特性

青年会議所には品格のある青年であれば、個人の意志によって入会できますが、大阪青年会議所では25歳から40歳までという年齢制限を設けています。（但し入会資格は満25歳から37歳まで）これは青年会議所が、青年の真摯な情熱を結集し社会に貢献することを目的に組織された青年のための団体だからです。会員は40歳を超えると現役を退かなくてはなりません。この年齢制限は青年会議所最大の特性であり、常に組織を若々しく保ち、果敢な行動力の源泉となっています。各青年会議所の理事長をはじめ、すべての任期は1年に限られています。会員は1年ごとにさまざまな役職を経験することで、豊富な実践経験を積むことができ、自己修練の成果を個々の活動に展開しています。青年会議所におけるさまざまな実践トレーニングを経験した活動分野は幅広く、OBも含め各界で社会に貢献しています。たとえば国会議員をはじめ、地方議員などの人材を輩出、日本のリーダーとして活躍中です。

大阪青年会議所の歴史

1950年	大阪青年会議所創立
1951年	日本青年会議所創立
1957年	「整肢学院児童招待ドライブ」を開始
1962年	「JCーアジアコンファレンス」を大阪にて開催
1970年	万国博野外劇場施設及び参加催物の提供
1974年	淀川改修100年を記念して「淀川100野外祭」を開催
1974年～83年	「淀川マラソン」を実施
1980年	「JCー世界会議大阪大会」を開催
1980年～	「キッズスワップ（交換ホームステイ）」を開始
1980年～89年	「国際シンポジウム」を開催
1981年	「TOYP（The Outstanding Young Person）大阪会議」を開催
1982年	「わんぱく相撲」を実施
1985年～	天神祭「船渡御」への能、文楽、歌舞伎船での参加
1986年	「Save The Children Japan（SCJ）」設立（大阪JCが中心となって設立）
1990年～93年	「エスノポップイン大阪（アジアの音楽祭）」を開催
1992年	「地球市民大阪ひろば（市民参加型集約事業）」を実施
1995年	阪神淡路大震災における組織的支援活動
	国連広報局よりNGOとして承認



整肢学院児童招待ドライブ



淀川マラソン

JC 宣言

日本の青年会議所は
混沌という未知の可能性を切り拓き
個人の自立性と社会の公共性が
生き生きと協和する
確かな時代を築くために
率先して行動することを
宣言する

綱 領

われわれ JAYCEE は
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者 相集い 力を合わせ
青年としての英知と勇氣と情熱をもって
明るい豊かな社会を
築き上げよう

1996年	「大阪NPOセンター」設立（大阪JCが中心となって設立）
1997年	「大阪モデル国連会議（OMUN）」開催
1998年	「第2回世界遺産国際ユースフォーラム1998」を開催
2000年	大阪JC創立50周年記念植樹「大阪JC実りの森」を実施
2001年	「日本JC第50回全国大会大阪大会」開催
2002年	「豊かな地球創造ミッション」を実施
2003年	次世代教育推進事業「根っ子学校」設立提言
2004年	「淀川どろんどろん探検隊」実施
2005年	「大阪市長選公開討論会」実施
2006年	「もっあきまへん浪速独立宣言」出版
2007年	「アメリカ村落書き消し事業」実施
2008年	「第65回JCー世界会議」を大阪にて実施
2010年	「大阪JC創立60周年記念式典・祝賀会」開催
2011年	「第65回JCー世界会議」を大阪にて実施



ふれ愛ビック大阪後夜祭



大阪 JCI 創立 60 周年記念式典



第 65 回 JCI 世界会議

凛々しいまち大阪の実現！ ～為すべきことを為し、 共に新たな歴史を刻もう～ 全ては未来のために



第61代 理事長
池田 太八
Tahachi Ikeda

はじめに

遥かこの国の外から見れば、今のこのまちはどのように見えるのだろうか。

この2011年を生きた私たちは、未来でどのように見えるのだろうか。

残された時間、未来のために、現在（いま）私たちに何ができるのだろうか。

私たちは誰であろうと、歴史という時間の流れと、世界という空間の中で生きています。故に過去であろうと未来であろうと、近くであろうと遠くであろうと、全ての出来事は必ず自分自身と関わり合いがあり、それぞれが多くの役割を担っていて、あらゆる事象の当事者であることを忘れてはなりません。また、私たちには、どのような境遇に置かれようとも、全て過去から受けたバトンを、これからの世界のニーズを的確に捉えて形とし、次の時代が少しでもより良く永続的なものにしていくために、各々の持てる力を合わせて、現実の問題に立ち向かわなければならぬ「為すべきこと」があります。現代のこの国やこのまちは、情報やインフラの急速な発展のおかげで、事実や背景を迅速且つ大量に知ることができるようになり、物財的な豊かさを簡単に得ることができるようになりました。その一方で多くの人が、有益な情報の取捨選択が困難となり、大衆の安直な感情を誤認したり、長期的な展望を考えず己の意志なく風評に流されたり、目先の利己的な行動に走る傾向にあります。しかし、より良い明日を創るには、氾濫する情報の中で世間の感情的な雰囲気流されず、先人の経験則を踏まえて時代に合わせ、多様な個性を融合させて、大胆に、そして毅然と新たな形を創ろうとする凛々しい姿が必要なのです。私たちは、ただ単にそんな時代を嘆き憂うだけではなく、期待感溢れる永続的な未来のために為すべきことを為し、あらゆる事象に対して扇情的な情報に左右されず、事実に従って互いに共生意識を持って新しい流れを創り出す「凛々しいまち大阪」の創造をめざします。

「凛々しい民」が新たな歴史を創る

歴史は必ず民の意志によって動き、長い目で見れば、それは必ず民にとってより良い方向へと進んでいきます。事実、歴史上においても、先の大戦後のアジアやアフリカにおける植民地の解放や、地球環境持続への配慮など、個人や国家が主導するものではなく、民の意志或いは民の意志で選ばれた人々によってより良い方向へと進んできたのです。個人においても、組織においても、そして社会においても、「自分たちのことは自分たちで決める」という基本姿勢を徹底し、なお且つ選択の権利を行使することによって、より良い未来は築かれて行くのです。安

直な判断を誘う雰囲気排除し、「凛々しい民」として、人やまちのためになろうとする規範に裏打ちされた自律した民が、未来に責任を負うあらゆる事に対し、今を生きている当事者として、現実に真正面から向かい合い、今行動へと移していかなければなりません。そのためには、まず自らを取りまく事柄を自分事として捉えてみて、その仕組みや内容、原理原則に興味や関心を持ち、感情的な世間の空気によって流されず、あらゆる立場の人たちがあらゆる立場の人の為に、自らの意志と知恵をもって考え、判断することが大切です。私たちは、「凛々しい民」の英知を集集し、より良い方向へと導く、新たな歴史を刻みます。

地域協育を推進しよう

私たちの生きるまちは、多くのひとや文化、歴史の集大成です。今の私たちが安穏と働き暮らせるのも、先人達が創り上げたこのまち、風土文化や経験によって培われた規範がベースにあるからに他なりません。私たちは、その人やまちを敬う心を持ち、共に未来を創ってこそ、新たな時代を切り開くことができるのです。人やものを敬い、それに倣って生きていくには、その人やものの背景や繋がり、文化に対して、充分に興味や知識を持って体得し、共感や感動を得なければ、その土台を築くことはできません。現在の学業は、背景を知り、情報を持つことを飛び越えて、興味や共感、感動に触れさせることなく歴史や人との関わりを記号として学び、記憶に留めさせるだけの傾向にあります。かつて商都と呼ばれた大阪のまちは、突然変異として全国各地の物産がこのまちに集中したり、商人や商店が集まったりしたのではなく、それまでにこの地に根付いた異国との交流や異文化を取り込む住民の気質が素地となり、その時代のこの国、近隣諸国とのバランスが、商都と言わしめるまちを創り上げました。まちの歴史や文化には多くの人の活動や行動、そして歴史的背景が積み重なり感情や感動による民意によって時代に沿うように変化し、今の状況となっています。そのことを私たち大人自身が、そのまま事象や単語として覚えるだけでなく、感動をもって知識とし、自身の関わるまちの背景をも共感として捉えて、次の世代に繋いでいくことこそが、このまちに生きる先人としての使命なのです。

共に築け！揺るぎない資産を

都市（まち）を構成する重要な要素として、そこには企業という必要不可欠な存在が必ずあります。「企業は社会の公器である」という松下幸之助の言葉にもあるように、それは経済活動を通じて社会を形作るパーツの一部であるということ、そして公器であるためには、経済に偏重し直接的に企業単体や個人の利を求めるだけでなく、このまちや国、この星全体を考えて長期的に活動しなければならないことを、そこに関わる全ての人が理解する必要があります。ノーブルオブリゲーションや社会的責任が企業に問われるようになって久しいですが、未（いま）だその実態は、世間の風潮や流行りに依るところが大きく、体裁を気にしての活動となっている事例が多く見受けられます。しかし物財的な豊かさを幸せとする前時代の活動は過去のものとなり、これからの公器としての活動は、時代の流れの中で企業が存在するために仕方なく行うのではなく、企業が志の中で貢献し、誰かの役に立つことこそ理念とすべきものであり、その理念こそが企業や団体の最も大きく揺るぎない資産となり、恒久的持続につながることを理解し実践しなければなりません。さらに、理念や大義を同じくし活動する者同士が、それぞれの得意とする役割や率先して行うべき使命を全うし、力を合わせる

ことでその存在意義はより大きなものとなり、関わる全てのステークホルダーとの良好な関係が形作られる素敵な社会となります。そのために、企業や団体が互いに惹かれあう公器としての活動を展開し、恒久的な資産を創りだしていきます。

地球規模で大阪的外交を展開しよう！

まちが一人ひとりの市民によって成り立っているように、この世界も一つ一つの国によって成り立っています。同じようにこのまちやそこに住み暮らし働く人々、企業、団体にも、世界にとって必要とされる為すべきことがあります。また、人と人やまちとまち、国と国の関係は、国策や行政の推進としてのみ始められ拡がるものではなく、まずは民間の意思によって築かれていかなければなりません。一般的に民間外交というと、形式的な懇話会や意見交換に尽きてしまうケースが多く見受けられますが、本来は、各々がこの世界においての責務を果たし、そして互いに協力し合い、より大きな効果が得られる活動を共に取り組むことこそ、私たちに求められている外交なのです。地域に住み暮らし働く人々たちが経験やつながりを基に、地球規模での俯瞰的な視野や感覚をもって結束し、世界の国々の平和のためにできる事があれば、もっと積極的に活動範囲を世界へと拡げて展開する必要があります。私たちはこのまちだけの姿をみるのではなく、地球全体の中に存在しているという事を念頭に置いて、平和に対して何ができるのかをしっかりと見据え、世界における大阪としての活動を積極的に展開していきます。

果敢に！JC大阪プレゼンスを！

戦後、この国は急速に個人の利己的な成果主義が進み、生活単位コミュニティの中で自己の確立や責任を伴った主体的判断ができなくなり、他者依存や先送り体質となる傾向があります。JC大阪に60年以上続くそこに根付いた文化や英知の集積、活動の数々は、その時代の社会に必要とされる事から始まりました。組織があるから運動や事業があるのではなく、現在の社会に、そして次の世代に必要であり、自分がすべきこととして立ち上がる若者たちがいたからこそ持続的な活動となり、歴史として培われてきたのです。「二階に昇りたい、何とかして昇りたい、二階に昇ることが唯一の目的だ、と熱意のある人はハシゴを考える。」私たちは、時間と世界との繋がりを体感し、目的をしっかりと見据えて新たな指針を打ち立てた今、運動が本来の姿と合致しているか、目的に向かっているか、地に足がついているかを逐次確認し、その実現のために熱意をもって歩んでいく必要があります。組織で培った経験則を生かして、より良い大きな変化を社会に起こすために、私たち単独の活動のみならず、あらゆる団体との共催や賛助も含め、積極果敢に取り組むべきです。そして多くの人や団体の一部として活動を行うことで、JC大阪プレゼンスともいえるべき圧倒的な存在感をもって、あらゆる方面からの評価や賛助を実直に受け止め、進化し続けることを伝統として、更なる飛躍をしていかなければなりません。歴史は振り返り学ぶだけではなく、自らの意志で活動した証として積み重ねて、輝く確かな未来に繋いでいくためものです。そして昔も今も変わらずJC大阪は、あらゆる価値の根源であり、変革の能動者の先頭となって、このまちにその名を刻んでいきます。

この世に生まれ、この世のために凛々しく生きた証をこの大阪に刻み込む。
全ては光輝く未来のために。

時代・社会が求めている事に 果敢に挑戦した一年。



私たち一人ひとりには、その時々によって様々な立場があります。このまちに住み暮らし働く市民としての立場、また消費も含めた経済というものに関わる立場、先に生を受けた者としての立場があります。それぞれの立場において、各々の責務を果たし、その上で新たな歴史を刻む人びとが、このまちに溢れば、本年度（社）大阪青年会議所が掲げる「凛々しいまち大阪」は実現します。昨今、何事においても自身以外の事象に対して、憂い嘆くことばかりが先に立ち、それぞれの立場における己の責務を果たす事を忘れている人が非常に増えている中、本年度私たちは、現実から目を逸らさずに、まずは自身の為すべき事を為した上で、意思意見を持ち、述べ、行動するよう努めて参りました。

また、60年の歴史のあるこの組織の持つ財産を活用し、新たな層へと踏み出し、新たな歴史を刻む事にも注力し、時代に合った、社会が求めている事にも果敢に挑戦しました。新たな歴史を刻むというのは、過去の実績やマニュアルを忠実に再現するだけではなく、過去の経験を踏まえた上で、時代のニーズにタイムリーに応じて行動を起こした時にのみ刻まれるという信念を持って、青年らしくタブーを厭わず。このまちに住み暮らし働く市民として、民意主導で理想社会実現を推進するために、首長や国会議員選出のための討論会を公開の場とWEBの両方で実施し、加えてアンケート採取などにより、汎用性のある市民ネットワークのベース構築を行いました。

また我々市民は、行政に求めるだけでなく、市民が率先して行わなければならない事を、ただ単にJCと行政で協働するのではなく、現在地域で活躍されている方と共に、そして私たちの次の世代をも巻き込み輪が広がるように工夫を加えて実施し、永続的实施に向け、関係者全員での意見交換会を行い、今後の取り組みを更に発展することに寄与できたと自負しております。その上で、大阪市の事業との共催事業「城灯りの景」「OSAKA キャッスル☆ハッスル!!」にも挑戦し、数時間で数万人の来場者にお越し頂くという行政にとっても、我々にとっても過去に無い実績を残すことができました。このような新たな試みに果敢に挑戦し、本当に公共が求めている事を行う事こそが、私たち本来の目的であり、これからも我々の組織の為すべきことであると考えます。

本年は、全ての事業において、私たちメンバーの共益のみの活動を極限まで抑え、少しでも多くの公益目的事業を開催して参りました。その上で、議論を重ね、実態を検証し、未来のまちのために一層私たちが選択した法人格は、「一般社団法人」。この法人格を選択したからといって、この組織の目的は、より良いまちの、国の、世界のためにあります。本年新たに刻んだ歴史を、より大きな効果に変える組織へと躍進することを切に願います。最後になりましたが、本年（社）大阪青年会議所の活動に多大なるご協力を頂きました皆様に、心より感謝申し上げます。

第61代 理事長

池田 太八

2011年度（社）大阪青年会議所では、池田理事長の素晴らしいリーダーシップのもと、「凛々しいまち大阪の実現！～為すべきことを為し、共に新たな歴史を刻もう～全ては未来のために」をスローガンに掲げ展開してまいりました。

大阪青年会議所の組織運営を担わせて頂いた専務理事として、大阪青年会議所のメンバーの強固な信頼関係を構築し、800余名のスケールメリットを最大に生かした組織を作り出す事を目的に取り組んでまいりました。

青年会議所の大切な財産は、多くの先輩諸兄が長年にわたり築きあげてきたものであります。これを過去からの遺産として利用し、また、食潰して一年を終えることなく、我々として新たなものを創出し、将来に繋ぐことのできる新たな資産を模索し、取り組みを進めてまいりました。

対外としては、将来に残せる大阪市との共催事業を実施することができ、また、これをきっかけに大阪市を始めとする関係諸団体ともこれまで以上の具体的な協働体制の下、事業を構築すべく新たなステージに入ったものと確信しております。

対内に目を移すと、本年度は、公益法人制度改革に伴う法人格選択の年でした。公益法人格に移行する各地青年会議所が多い中、大阪青年会議所の存在意義を検討し、その潜在的能力を発揮するためには一般社団法人へと進むべき、と10月度の社員総会で決議されました。この事は、制度改革にかかわらず、今まで以上に輝かしい新しい大阪青年会議所に生まれ変わる最初のきっかけであると信じております。

2012年度は、一般社団法人大阪青年会議所としての姿を具現化していかなくてもなりません、大阪青年会議所としての青年会議所たる素晴らしさは失われることのないよう制度改革に対応することが大切だと考えます。

最後になりますが、2011年度は例年にも増して大阪青年会議所への格別のご理解とご協力を賜りました。関係各位並びに会員の皆さまに心よりお礼を申し上げます。

大阪市との協働体制という 新ステージに入ったと確信。



専務理事

中川 翼

時代の変化に合わせて運動は変わる
去年と同じ事をしている方がおかしい。

専務理事 中川 翼

為すべきことを為してから、
意見を言ったり、夢語らなアカン。

理事長 池田 太八



時代に、社会に必要とされる組織であるために、
変わるためのリスクはとるべき。

専務理事：一年間お疲れさまでした。

まず最初に今年の所信で「凛々しいまち大阪の実現」という運動を掲げられていましたが、これは、どういう時に言いますか、どういう場面で、この運動を展開していきたいと思われたのですか？

理事長：うーん。どういう場面って聞かれると難しいんだけど、どうなればより良い社会が創れるか？自分たちに何ができるかを考えた時に、この組織というか僕たちは何も考えられてない、してないんじゃないか？時代に合っていないんじゃないか？って思ったんだよね。そこで、この所信にたどり着きました。

専務理事：なるほど。実際、一年間、この運動に向かって様々な事業を展開していましたが、今年は結構、事業の中にも、理事長としてのカラーが特色として出ましたよね。

理事長：やっぱり、大阪青年会議所の行う事業にもリスクを取っていかないとダメだと思うね。単に、続いている事業を、繰り返し繰り返し、同じ形で続けているだけではダメでしょう。時代も変わるし、環境も変わる、なのに、そのまま同じことを続けようとするのは。時代は進んでいるのに、それを敏感に、とまでは言わなくても、自分のやろうとしていることの感覚がずれている、とかは気付かないといけないと思うし、気付いていても、そのまま過去の踏襲をしようとするのは、話が元に戻るけど、事業をやるのにリスクを取ろうとしていないんだと思うなあ。

専務理事：継続事業は、去年と同じようにやれば、乱暴な言い方ですけど、楽ですからね。少しでも、青年会議所運動を

前進させていこうとするならば、言いかえれば、時代に合わせた青年会議所運動をしていくのであれば、確かに、時代の変化に合わせて運動は変わるし、事業も手法も変わるんでしょうね。その意味では、去年とまったく同じやり方、同じことをしている方がおかしい、となりますね。

理事長：そやねん。そやから、常に感覚を研ぎ澄まして、新しいことにチャレンジしていかなければならない。新しいことをすれば、当然、リスクは出てくるんだろうけれど、キャビネット、特に、P専は、潰したらアカン。

専務理事：そうですね。それは思います。でも、今年はいろんなことに挑戦しましたね。池田丸は全開で走っているわけですから、当然、波風も立つわけですが。

理事長：走っている本人は気付かない(笑)。波風受けるのがイヤなら、一緒に走ったらええねん。JCにすらついて来なければ、時代というか社会から取り残されるよ。

専務理事：ははは。理事長らしい。

理事長：今年は、一般法人か公益法人の選択をしなくてはならない年やったしね。日本の他のLOMは公益社団法人を目指しているところが多いみたいなんやけど、そもそもの趣旨や目的のためなら、株式会社とかそんなんでもかまへんし、別に社団法人にこだわらんでええと思っててん。

専務理事：株式会社って。社団法人は解散したら、残余財産は類似の法人に移すか、国庫に帰属する、というのが決まりなんで、実際には株式会社にはできないんですけど。

理事長：そうか。そやけど、現実問題、この組織の目的は公益的な社会開発なんやから、公益比率が現実的にどのくら

いなのかは把握しなきゃならないし、比率を高めなきゃならない。だから、メンバーのためだけの月例会を止めてOJCフォーラムに変えたり、大型で行政と共催での市民参加型事業としてOSAKAキャッスル☆ハッスル!!を企画したり、色々、公益事業費を高める工夫をしたよね。でも、やってみただけど、公益事業比50%を超えられなかったし、将来的に維持していくのは、難しいということが分かったよね。

専務理事：実際、やってみた感想ですからね。説得力ありますね。

理事長：説得力っていうか、今の僕たちの活動は、公益は過半数を超えていないという現実を知ったし、社会開発や地域貢献を目的にした団体と言って良いのか不安になったよ。

専務理事：そうは言えども、社会貢献的な要素がないとJC運動も成立しませんから、一般社団法人を選んだ後も、それはそれとしてしっかりやっていかないとイケませんね。

理事長：確かに。もっと言えば、社会貢献云々の前に、今年のテーマの「為すべきことを為す」やね。やることやってから、意見を言ったり、夢語らなアカン。

専務理事：そうですね。僕たちは評論家じゃありませんからね。最近では、やることやらないで、評論する人が多いですからねえ。

理事長：そやね。そんな奴の評論は誰も聞かんっていうことが分かってない。政治家も企業人も。そんでもって、達成感と達成率、僕らの組織でいう運動の拡がりや勘違いしてる奴も多すぎる。

専務理事：事業を終えての達成感と、事業目的の達成率は違

いますからね。達成感とは個人が頑張れば得ることができますが、目的の達成率というか影響度というかは、ニーズと現実性と事業が一致しなきゃならないので、余程の協議や準備が必要になりますね。

理事長：そういうこと。ぼーっと昔のマニュアルに従って、担当者付け替えても目的の達成率は下がる一方やからね。だから、新しいというか時代に合った手法で取り組まな。でも、メンバーシップに主軸を置いていると、メンバー同士で一緒に取り組むというところが重点的になるから、世間がどうであろうと、目的達成率がそこそこであろうと、「やった感」が大きけりゃええって事になってくる。

専務理事：そんな事してたら、いつまで経っても私たちの活動は、絵に描いた餅になってしまって、社会から不要論を突き付けられてしまいます。

理事長：まあ、好きでやっている団体なので、不要論とはいかないまでも、魅力や影響力のない団体になってしまうよね。

専務理事：そうならないためにも、会の目的、事業の目的をしっかりと考えて活動しなければなりませんね。

理事長：そうやね。僕は今年で卒業するけど、特別会員になっても、会の一員として、まちのために、そして現役のために頑張ります。出過ぎず、引き過ぎず。

専務理事：宜しくお願いします。あんまり出過ぎないで下さいね(笑)。

理事長：現役も引き過ぎるなよ(笑)。

専務理事：一年間、ありがとうございました。

(2011年12月13日・リーガロイヤルホテル大阪にて)

官に頼らず官を支える ～東日本大震災に JCI の存在意義を知る～

2011 年度は日本国にとって、歴史の分岐点となる年となりました。それは東日本大震災という大規模災害が発生した事に起因する、あらゆるカテゴリーの社会的構造に複合的に影響を及ぼした事によって起きた強制的パラダイムシフトです。JCI 大阪もまた、その渦中にある民間の団体として大きな役割を担ってきました。これは、JCI という団体の存在意義を改めて浮きだたせ、被災地域で最も機敏で早く効果的に動ける民間団体として広く認知度を高める事になった事で、改めて自らの存在意義を知る機会でもありました。被災地域では、家も仕事も失った現地メンバーが着の身着のまま、物資の受発送を担い活動をしていました。私たちはそういった現地で踏ん張っているメンバーをハブに、どの団体よりも迅速に血液を循環させる能力を持っている事に気付きました。この事実は、これから先の社会を連想させる象徴的出来事でもありました。高齢化社会を迎えている状況で、国策による社会インフラの整備が臨界点に達しつつある現在、民間の経済活動を通じて社会を支える事が民間の役割です。企業や NPO、NGO や各種法人はこれまでに国が担ってきた役割を経済活動で補完して行かなければなりませんし、私たちの役割として、例えば 3.11 後に目まぐるしく変化するエネルギー市場についても民間企業の理念ある方向性を調査しながら創り上げていくエネルギーの問題や、先の選挙でも実施したインターネット上での政策比較を行う web 討論会という事業等を継続しなくてはなりませんし、自らが active citizen であり続けなくてはなりません。そして、本年度の活動を通じて考えられる、これからの社会で企業や団体として社会を創っていくのは「共感経済」を具現化出来る団体であると思います。その為には、企業や団体活動の中には理念を具現化した活動を告知しなくてはなりません。例えば、JC であってもアニュアルに ISO26000 やグローバルコンパクトといった CSR 的指標を用いたレポートやより客観的な評価も必要でしょう。そのことがまた、JC 活動自体の存在意義、働く意義、社会との結びつきを、所属している個人の啓発を通じて社会に共感を生み、魂のこもった社会を作ります。そんな社会を支えていくのは「国に頼らず国を支える」という事を具現化出来る我々事業家であるメンバー各々との自負を持ってそれぞれのフィールドで活躍できるメンバーでありたいと思います。市長も変わり、さらなる歴史の転換期を迎えた JCI 大阪の次年度以降の活動においても、先輩諸兄より受け継いだ「官に頼らず官を支える」伝統を守り続ける事を祈念して、アニュアルに寄せての寄稿とさせていただきます。

直前理事長
近藤 康之
Yasuyuki Kondo

世界が共に行動する事の大切さを実感 ～日本 JC・UN 議長としての活動を通して～

本年度は、2008年に起こったリーマンショックから徐々に経済が立ち直りつつある中、3月に発生した東日本大震災の影響により、日本の経済活動が停滞し、一時は当初考えていた運動を続けていく事が危ぶまれましたが、皆様のご協力のお陰で復興支援活動にも取り組みながら、大阪青年会議所の運動・活動を続けていく事ができました。2011年度は、社団法人 大阪青年会議所の代表として『明るい豊かな社会』を実現するために、公益社団法人日本青年会議所に顧問として出向させて頂きました。大阪JCや日本JCの活動を通じて今までに培った知識や経験をもとに、物事に正面から取り組むこと等を、メンバーの皆様にお伝えし理解して頂くべく行動をしまいいりました。また、本年はJCI（国際青年会議所）の、UN AFFAIRS COMMISSION CHAIRPERSON（UN議長）としても出向させて頂きました。同じJCIバッジを持つ多くの海外のリーダーの方々と意見を交換し、さまざまなリーダーシップの取り方に触れる機会を頂きました。グローバル・パートナーシップ・サミット（GPS）においては、国連ミレニアム開発目標（MDGS）の達成をめざす国際連合（ユナイテッド・ネーションズ）に賛同し、どのようにしてJCIナッシング・バットネッツ・キャンペーン（MDG 6：マラリヤ撲滅運動）を成功に導くのか、またグローバル・コンパクトに対しどのように参画すれば良いのかといった議論を熱く交わすことから、世界中が目的に向かって共に行動をする事の大事さ改めて実感いたしました。青年会議所というのは、多くの事を学ぶ場であり、高みを望み、挑戦していく団体であると思います。そして、挑戦をしていく事が、多くのリーダーを育て、まちの活性化につながっていくのだと考えます。その中において多くの事を学ぶためにも、リーダーは、志を同じくする仲間と多くの事に挑戦し、失敗しても起き上がり、這い上がる必要があると考えます。リーダーを掘り起こすためには、メンバー一人ひとりが物事に携わることができ、自分たちの行っていることが市民の皆様に伝わっていることや、社会貢献をしている認識ができればならないと考えます。その上で、メンバー一人ひとりが、ただ単に“やらされている感”から、自らが進んで発言し前へ前へ行動していくような人が生まれる運動を展開していく必要があると思います。私たち青年が高い志を立て自分自身が変わらなければ、決して未来は変えることができません。最後になりますが、大阪青年会議所は、昨年度にJCI世界会議を開催という大きな目標を達成し、そして本年度は次の大きな目標を確立するために多くの事に理事会構成メンバーで挑戦しました。残られるメンバーの皆様は、脈々と続けてこられた青年会議所運動とは何なのかを考え、未来を見据えて高い志を立てて行動していくことを切に願います。本年度も大阪青年会議所に対し、多方面の方々にご理解、ご厚情を賜り、誠にありがとうございました。今後とも引き続きご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

特別顧問
藤井 俊成
Toshinari Fujii

役員あいさつ

行動すれば、必ずフォロワーが生じるという強い信念をもって

本年、「凛々しいまち大阪の実現」をめざし、民意主導推進室の担当副理事長をさせて頂きました。

今、大阪のまちに必要な事は、各々の役割を認識し、当事者意識を持ちながら、まちや人に積極的に関わり、良い事は更に良くなるように継続拡大し、問題となる事にはその解決に向けて「為すべきことを為す」そんな凛々しい人びとだと考えます。

大阪市や各種団体が、大阪を良くしたい、活性化させたい、という強い想いを持ちながら行っている様々な取り組み、若しくは今この時に解決しておかなければ、光輝く未来を、子や孫に残せないから是非とも解決しようとしている事を、気力・体力の充実した未来への責任世代である大阪青年会議所が先駆けて行動を起こす事は、必ずやそのフォロワーを生み出していくという強い信念のもと、1年間活動をして参りました。

人に物事を勧めるには、まず自分が率先してやる、そんな事が最初は遠巻きに見ている人びとを引き寄せ、やがてはそれをやる事が当たり前になっていく。こんな事が実現できるまでには相当な時間がかかると思います。ただ今年の活動を通じて感じた事です、誰もやらない、やりたくないと思っている事を我々が率先してやる事が必要なのだと考えます。更に、そんな人びとを沢山集めるには、難しい事では無く、普段の生活に密着した話題や情報を的確に提供する事も大事だと感じさせられました。これから大阪青年会議所は、今年行ったような事業を更に広く告知し、人びとが、自分たちのまちの事をもっと知り、もっと興味を持ち、当事者意識と愛情を持ちながら積極的に関わる様々な仕掛けを創り出すと共に、やはり行動する事を止めてはいけなと確信致しました。

最後に、本年度お世話になりました行政、各種団体、個人の皆様方に心より感謝を申し上げますと共に、来年以降も大阪青年会議所により一層のご高配を賜ります事をお願い申し上げます。

本当にありがとうございました。

副理事長
白井 将勝
Masakatsu Usui



人と人のつながりを強化するための運動を展開

本年度は、「凛々しいまち大阪の実現」をめざし、協育推進室の担当副理事長をさせて頂きました。近代化の進展に伴い、地方から都市部に人口が流入し、よりよいまちを創る地域コミュニティが崩壊してきています。また、家族間においても核家族化の進展に伴い、人と人との関係が気薄になってきています。大阪JCIが展開する各分野においても根底にある大きなテーマであります。子どもたちは、一人遊びが増え、人と接することもなく、未来に夢をもてない子どもたちが増えてきています。大阪のまちに関わるすべての人びとが、互いに尊重しながら、支え合い、未来への夢を描き憧れに向かって共に進んでいこうと挑む事が必要なことであり、大人同士、子ども同士、大人と子どもの信頼関係が重要であると考えました。事業内容では、大人や子どもをターゲットとし、人間本来が持つ、手を取り合って協力し歩んでいこうとする心を抱き何事も挑戦する意欲を育み、同時に過去の先人たちの経験則を学び、夢の実現にむけ共に力を合わせ支え合う、信頼し合える関係を築きあげる、この二つの運動を展開してまいりました。

また、今年度は、財務審議会議長という役割を担い、組織の取り組む事業の費用対効果を検証させて頂きました。800余名のメンバーのかけがえのない会費を預かっている立場から、各委員会が企画している事業が委員会事業計画案に沿っているかどうかを検証し、事業にかかわる費用が十分に運動を拡げる効果が見込めるかどうかといった点を中心に精査させて頂きました。改めて大阪JCIには61年間の歴史の中で莫大の有形無形の財産が蓄積されていることを感じさせられました。

本年の成果を活かし来年以降も存在感をもちながら「大阪のまち」の為に積極的に運動展開して参りたいと思いますので、引き続きのご支援ご協力賜りますように宜しくお願いします。

副理事長
草刈 健太郎
Kentarō Kusakari



ダイナミックに活動するための連携役として

本年度のスローガンである「凛々しいまち大阪の実現！～為すべきことを為し、共に新たな歴史を刻もう～全ては未来のために」を掲げ、大阪のまちに私たちが掲げたスローガンの実現を目指し、理事長代行、そして補佐役として各室、各担当委員会が適切な方向性をもって事業活動が実施されているかを慎重に確認しながら最適なアドバイスを適時実施致しました。

また、2011年度は4年に一度の大型選挙であり大阪府民・大阪市民だけでなくすべての日本国民から大きな注目を集めた大阪府知事・大阪市長のダブル選挙、大阪市との協働事業である大阪城 城灯りの景（しろあかりのえ）、放置自転車問題解決のためのスマートサイクリスト事業を実施致しました。特に、城灯りの景では5万人の市民を1日で集客する大型事業である点から全員一致協力して万全の準備を整えての開催となりました。

さらに、スマートサイクリスト事業においては平松邦夫大阪市長からも今後の事業継続とまちづくりの強い意欲についての賛辞及び直接の激励を頂きました。

多くの学生・市民・団体がまちづくりに向けて協力しあって今後も事業継続を誓い合う非常に大きな成果を得ることができました。

なお、世界の恒久的平和という大きな目標を掲げ、2010年JCI世界会議大阪大会・記念事業としてダライ・ラマ法王による講演からスタートしたピースカンファレンスオブユースも2年目を迎え、世界中から来阪した学生が1週間のスケジュールで熱い議論を展開し、世界平和のための具体的アクションプラン策定を実施しました。

また、31年目を迎えるTOYP（The outstanding young person）事業も震災で開催が危ぶまれましたが滞りなく実施され、TOYPサミットという対話形式のセミナー開催により大阪市民に多くの日本復興のための具体的な行動指針や成功者の体験を直に確認する機会を創出することができました。

最後に、前述致しました多くの事業は、市民、行政、各種団体の皆様から多くのご支援・ご協力を頂きましたお陰をもちまして我がまち大阪に大きな影響を及ぼす活動を実施することができました。心より御礼申し上げます。

副理事長
杉野 利幸
Toshiyuki Sugino



「公の精神」を軸に大阪JCIをブランディング

本年度、社団法人大阪青年会議所は「凛々しいまち大阪の実現」をめざし、池田理事長のもと800余名のメンバーが一丸となり運動を展開して参りました。それぞれの委員会が為すべきことをなし、青年として柔軟な発想と行動力そしてこの大阪のまちを愛し、住み暮らし働くまちを少しでもよくしたいという郷土愛と青年会議所の一員であるという誇りを胸に抱いて明るい豊かな社会の実現のため日々活動している青年の姿は、混沌とした社会の中であっても清しく頼もしいものであると思います。本年度は新たな取り組みとして、メンバー以外の方にも我々の運動を知ってもらい、広めていくためにOJCフォーラムを開催いたしました。これは法人制度改革を見据え公益社団が一般社団を選択していくことでの取り組みでもありましたが、今後を選択していく一助となる大きな成果に繋がったと思います。そして、集約事業としてOSAKAキャッスル☆ハッスル!!を「大阪城 城灯りの景」開催と共におこない2日間にわたる事業では多くの市民の皆様にお越しをいただき、大阪青年会議所の運動を上げ、ブランディングの向上に繋がれたことは大きな成果であったと思います。この取り組みは私たちの大きな財産であり引き継いでいくべき活動となりました。

最後に、10月の総会において一般社団法人が公益社団法人の選択においてメンバーの総意のもと一般社団法人の選択がなされ、12年度は一般社団法人取得に向け取り組みが行われていきます。しかし、今まで61年間公のために取り組んできた青年会議所の運動の本質はなんら変わるのではなく、これからも公のために運動を展開していくことは紛れもない事実であります。先達から脈々と培われ承継されてきた歴史と伝統を受け止め運動の本質を捉えながら変えるべきところは変えていき次の時代を見据えこれからも社会から必要とされる組織であるために取り組んでいかれますことを期待いたします。

監事
出口 憲作
Kensaku Deguchi





大阪市長
平松 邦夫

大阪青年会議所の皆様におかれましては、平素から、明るい豊かな社会の実現をめざして多彩な公益事業に取り組まれ、大阪の発展と繁栄に多大のご貢献をいただいております、そのご熱意とご尽力に深く敬意を表する次第です。

2011年度におきましても、大阪青年会議所の事業に出席する機会を多数いただきましたので、その事業を振り返ることといたします。

まず、7月に池田理事長とお会いし、「凛々しいまち大阪の実現！～為すべきことを為し、共に新たな歴史を刻もう～全ては未来のために」という所信表明とともに、大阪市とともに、民間ならではの活動をしたいとお言葉をいただき、大変頼もしく感じました。

今年は、夏の催しとして恒例の「なにわ淀川花火大会」に加え、新たに「大阪城 城灯りの景」においてボランティアにご協力いただくとともに、大阪青年会議所独自のコーナーとして、「大阪的グルメグランプリ OSAKA キャッスル☆ハッスル!!」を主催され、イベントをより一層盛り上げていただきました。今後も開催されていくとのことであり、大阪青年会議所の皆さんの実行力とパワーに大いに期待しております。

一方で、今年は東日本大震災が発生し、日本全体が大きな被害を受けました。大阪市としても、物資の支援や職員の派遣をはじめ迅速な対応を行ない、復興に向けて息の長い支援を続けており、大阪青年会議所も石巻市を積極的に支援されています。

これからは「絆」が一層大切な時代になります。そうした中、現在もご協力いただいている放置自転車のボランティア等、地域に根差した地道な活動や、企業も含めた市民のつながりこそが、大阪を支えている真の力の源であると確信しております。

顧みますと、皆様方の大きなご支援をいただき、平成19年に市長に就任して以来、私は、愛する大阪市の発展・繁栄に全身全霊を捧げてまいりましたが、12月18日をもって退任することとなりました。これまで皆様方に賜った温かいご厚情とご支援に、改めて心から厚くお礼申し上げます。

今後とも、次代を担う子どもたちが健やかに育ち、だれもが安心していきいきと暮らし、新しい産業や文化が生まれる活力と魅力に満ちた大阪のまちづくりに、皆様方のお力添えをお願い申し上げます。

大阪青年会議所のますますのご発展と、皆様方のご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げます。

市長にご参加いただいた事業（一部）



5月 第30回大阪市長杯わんぱく相撲大会



7月 OB 現役交歓会



8月 なにわ淀川花火大会



11月 大阪市長選挙公開討論会

1月
新年名刺交換会



6日 18:00～20:00
ホテルニューオータニ大阪

池田会議



15日 17:15～
16日 12:00～
池田不死王閣

総会フォーラム



15日 16:00～ 池田不死王閣
講師：原田武夫氏（原田武夫国際戦略情報研究所 代表／元外務省官僚）

京都会議



20日～23日
国立京都国際会館

7月

JCI 日本サマーコンファレンス



16日～17日 横浜 パシフィコ横浜

OB 現役交歓会



30日 17:30～
リーガロイヤルホテル
講師：衆議院議員 田中 真紀子氏

8月

なにわ淀川花火大会



6日 大阪市淀川

大阪ブロック合同出陣式



31日 19:00～21:00
ハイアット・リージェンシー大阪

2月

政策討論会「選択しませんか？私たちの未来を！」



18日 19:00～21:00 サンケイホール・ブリーゼ
【パネリスト】（五十音順）民主党 梅村 さとし氏／社民党 小沢 福子氏／日本共産党 小原 亮氏／公明党 辻 よしたか氏／大阪維新の会 代表 橋下 徹氏／自由民主党 柳本 顕氏【コーディネーター】近藤 光史氏（タレント、元毎日放送アナウンサー）

3月 潜在力開発フォーラム

「～輝かそう！明るい未来にスイッチオン！～」



15日 19:00～21:00
リーガロイヤルホテル
講師：広澤 克実氏

近畿地区 会員大会



6日 武庫川女子大学

なにわ淀川花火大会清掃作業



7日 大阪市淀川

OSAKA キャッスル☆ハッスル!! 決起集会



26日 ホテルニューオータニ大阪

OSAKA キャッスル☆ハッスル!!



27日～28日 大阪城西の丸庭園

4月

新入会員入会式・新人セミナー



9日～10日
シティプラザ大阪、勝尾寺



RRT MUSIC FESTA in OSAKA2011



15日 19:00～21:00
大阪府立体育館
Licana/TOZY/FLIGHT/ 礒村 純衣 / 清水 ひろみ / Sarasa / LOVE ONE ☆ DRAFT

5月

わんぱく相撲大阪市大会



21日 8:30～19:00
大阪府立体育館

9月

TOYP 事業



8日～14日
大阪市公館、阿倍野区民センター ほか

コーカスミーティング



21日 18:00～21:00
リーガロイヤルホテル

第60回全国会員大会
名古屋大会



29日～10月2日 名古屋

10月

金沢大阪交歓会



7日 大阪市内

輝 KID's フォーラム



21日 13:00～14:00 大阪府立体育館
講師：池谷 幸雄氏



ASPAC マニラ大会



26日～29日
フィリピン マニラ

6月

岡山大阪交歓会



2日 大阪市内

フォーラム



20日 19:00～21:00 帝国ホテル
講師：岩崎 夏海氏（「もしも高校野球の女子マネージャーがドラッカーのマネジメントを読んだら」著者）

RRT プロジェクトミーティング事業



21日 大阪市公館

JCI 世界会議
ブリュッセル大会



31日～11月5日
ベルギー ブリュッセル

11月

大阪市長選挙 公開討論会



13日 梅田クリスタルホール

新入会員入会式（6月入会）・
新人セミナー（6月入会）



4日 11:30～12:00、
13:00～18:00
大阪JC事務局

RRT
スマートサイクリスト事業



4日 13:00～15:00
あびこ駅周辺

未来創造フォーラム



11日 13:00～16:00
森ノ宮ビロティホール
講師：間 寛平氏、小田 兼利氏（日本ボリグル(株) 代表取締役会長）

整肢学院
児童レクリエーション



25日 大阪府立整肢学院

フォーラム



18日 リーガロイヤルホテル
講師：野崎 勝義氏（元阪神タイガース 球団社長）

12月
大阪ブロック協議会大納会



1日 ハイアット・リージェンシー大阪

会員大会・卒業式



6日 17:30～22:00
リーガロイヤルホテル





3月11日に発生致しました東日本大震災で被災された皆様に対しまして、心よりお見舞いを申し上げます。
大阪青年会議所は、発災直後より義捐金口座の立ち上げや、物資の支援を行いました。
本年、義捐金、物資の提供を頂きました皆様へ改めて御礼申し上げます。
また、「東北の子どもたちに笑顔を！」プロジェクトとして、石巻専修大学と連携をしながら、被災地の子どもたちに対する支援も行っており参りました。
我々が現地に送ったスマイルワゴンやテントが、子どもたちの笑顔と健やかな成長に少しでもお役に立てば幸いです。
今後も、大阪青年会議所だからこそできる支援を続けて参りますので、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

OJC 災害支援対策本部 本部長 臼井 将勝

【東日本大震災】

3月11日14時46分18秒、宮城県牡鹿半島の東南東沖130kmの海底を震源として発生。マグニチュード (Mw) 9.0を記録。震源域は岩手県沖から茨城県沖までの南北約500km、東西約200kmの広範囲に及んだ（気象庁）。この地震により、場所によっては波高10m以上、最大遡上高39.7m（9.14発表／土木学会東日本大震災特別委員会の津波特定テーマ委員会）にも上る大津波が発生し、東北地方と関東地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらした。震災による死者15,842名、行方不明者3,481名。建築物の全壊・半壊は合わせて35万戸以上（12.16時点・警察庁）、ピーク時の避難者は40万人以上に上った。地震と津波による被害を受けた東京電力福島第一原子力発電所では、全電源を喪失して原子炉を冷却できなくなり、大量の放射性物質の漏洩を伴う重大な原子力事故に発展（福島第一原子力発電所事故）。これにより、周辺一帯の福島県住民は長期の避難を強いられている。

JCI 大阪救援物資倉庫

3月22日より、八光倉庫株式会社・異倉庫（池田太八理事長提供／生野区異南2丁目）をJCI大阪専用の救援物資倉庫とし、OBの方、現役メンバー、そして一般の方々が提供して下さる救援物資の仕分け・保管場所としました。物資の受付は、阪本祐浩常任理事、「凛々しい民」創造委員会、大阪の外交推進委員会、経験則継承委員会のメンバーが担当。カーペットや、高機能な敷物、インスタントラーメンや靴下など続々寄せられる支援物資を責任をもって、被災地へ届けさせていただきました。（4月23日まで物資受付）
また、大阪青年会議所のWebサイトトップページにて、被災地の方からの、支援物資リクエスト情報を掲載することで、被災地の方と、大阪の方々の思いをつなぐ支援ができるよう努めました。



「東北の子どもたちに笑顔を！」プロジェクト

「東北の子どもたちに笑顔を！」プロジェクトは、石巻専修大学（宮城県石巻市）と JCI 大阪が、東日本大震災により被災した地域の教育機関ならびに子どもたちを支援するために連携し、お互いの強みを生かし広範な分野で協力するプロジェクトです。5 月 17 日に、両団体の間で合意書が締結され、以下に記載の通り活動をして参りました。



<http://www.jci-osaka-fukkou.sblo.jp/>

【具体的な活動内容】（プロジェクトブログより抜粋） マスク等支援物資の送付（6 月 23 日～）

がれきの撤去作業等で沢山の粉塵が出ているとの現地からの支援要請を受け、マスクを合意先の石巻専修大学に向けて発送。

- ①大阪より小・中・高校生用のマスク（子ども用 320 万枚・段ボール 1,820 箱（13t 車 x 2 台）
- ②群馬県の（株）ファーストレイト社より保育園児用のマスク（9 万枚）

マスク等支援物資の送付（7 月 13 日～ 14 日）

大阪 JCI の支援物資倉庫にてメンバー約 20 名により物資の積み込みが行われ、翌日、石巻専修大学のボランティア学生、同窓会の皆様に協力いただいた。マスク（子ども用）約 70 万枚・（大人用）約 7 万枚／LED 懐中電灯・約 1,200 個／box ティッシュ 約 5,000 箱／除菌スプレー・約 1,400 個／他：紙おむつ、子ども用歯ブラシなど

絵本・「スマイルワゴン」贈呈式（7 月 24 日）

わんぱく相撲の際に集めた絵本約 1,000 冊と、ハイエース「スマイルワゴン」の贈呈を行うため、石巻専修大学で開催された TBC（東北放送）夏祭りでの贈呈式に池田理事長が出席。

石巻専修大学ブースの応援（8 月 20 日～ 21 日）

「青少年のための科学の祭典 石巻大会」でパネル展示により当プロジェクトの取り組みが紹介される。石巻専修大学ブースでのプロジェクトに義捐金を使用。

テントの寄贈（10 月 19 日～）

石巻市の保管庫に当プロジェクトのイラスト入りテントを送る。「スマイルワゴン」に載せて、石巻地域で被災した保育所・小学校に順次寄贈。
10/22 渡波保育所・10/31 湊小学校・11/1 湊第二小学校・11/2 渡波小学校・11/15 水明保育所・11/16 石巻仮設保育所（はまなす保育所・湊保育所）・11/17 石巻市立荻浜保育所・11/27 石巻市立牡鹿地区仮設保育所・11/28 石巻市立谷川小学校 など



石巻専修大学での絵本・「スマイルワゴン」贈呈式

義捐金募金活動

大阪 JCI の各事業活動を通して、義捐金や応援メッセージ、絵本などを募りました。

【募金活動実施事例】

4 月 1（金）・2（土）・3（日）

心斎橋 OPA 前にて実施。

4 月 15 日（金）

OJC フォーラム『RRT MUSIC FESTA』の開催に合わせて、府立体育館内と体育館前、歌舞伎座前にて実施。また、被災地へのメッセージを贈るため、多くの方々に心温まるメッセージを記入いただいた。

5 月 21 日（土）

第 30 回大阪市長杯わんぱく相撲大阪市大会会場（大阪府立体育会館）では、義捐金募金活動とともに、被災地（石巻市・東松島市）の子ども達に贈る応援メッセージを添えた絵本の寄贈受付コーナーを設置しました。

6 月 11 日（土）

間寛平氏、小田兼利氏（「日本ポリグル株式会社」会長）を招いての『未来創造フォーラム』講演会場（森ノ宮ピロティホール）にて、義捐金募金活動を実施。

8 月 8 日（月）

なにわ淀川花火大会会場にて実施。

8 月 27（土）・28 日（日）

「OSAKA キャッスル☆ハッスル!!」各会場にて実施。



子どもたちからのマスクのお礼状



各地のテント寄贈先の皆さん



石巻専修大学本部を背景に「スマイルワゴン」と



大阪のまちの人々に、大阪のまちに対する誇りや愛着、あらたな価値観を生み出すことを目的に、8月27日（金）・28日（土）に「OSAKA キャッスル☆ハッスル !!」が開催されました。
大阪城公園一帯と会場を広く設定し、食いだおれ大阪の味自慢の名店 50 店を集めた「大阪的グルメグランプリ」、約 2 万個のろうそく行灯を灯す「城灯りの景」（主催：大阪城・上町台地エリア魅力創出実行委員会）、さらに、各委員会事業を同日、同時時間帯に織り交ぜ一挙開催されたのが、「OSAKA キャッスル☆ハッスル !!」です。
27 日こそ記録的な豪雨でほとんどのイベントが中止となりましたが、28 日には約 5 万 5 千人の方々に参加いただきました。

■プログラム

8月26日（金）

決起集会（民意確立委員会）19:00～21:00 ホテルニューオタニ
予定を上回る約 360 名が集結。司会進行にかつみ・さゆりを招き、室
対抗のクイズ大会なども催し会場を盛り上げました。開催の目的を確認
し合うとともに、会員一丸となって大会の成功を誓いました。



8月27日（土）

音楽フェスタ（「凛々しい民」創造委員会）

14:00～16:00 大阪城西の丸庭園 特設ステージ
出演アーティスト：サラサ／ONE ☆ DRAFT
※サラサさんの熱唱で会場は盛り上がりましたが、途中豪雨に見舞われ、
ONE ☆ DRAFT さんのステージは残念ながら中止となりました。



社会イノベーションフォーラム（揺るぎない資産確立委員会）

14:30～16:00 松下 IMP ホール会議室
社会イノベーターとして活躍する NPO 法人フローレンス、駒崎弘樹氏
に講演いただくことで、約 120 名の参加者に、自らも未来を創り上げ
る当事者なんだということを伝えました。



豪雨による警報発令のため、16:00 以降に予定されていた以下の行事は中止となりました。

○開会式・オープニングアクト ○大阪的グルメグランプリ ○大阪城城灯りの景（大阪城・上町台地エリア魅力創出実行委員会主催）

8月28日（日）

夏の課外授業！『輝 KID'S フェスタ』（共感教育実践委員会）

10:00～ 松下 IMP ホール
子どもたちに、未来に向けたチャレンジ精神を養ってもらうため、約
270 名の親子参加者を対象に、ウルトラマンによる「世界一受けたい
授業」を開催。子どもたちの参加型・体感型授業で共に学ぶ楽しさを伝
えました。



『エクレールお菓子放浪記』映画上映会（経験則継承委員会）

13:00～15:20 松下 IMP ホール
東日本大震災発生前の宮城県をメインロケ地として撮影された本映画。
石巻市長のご挨拶映像や、主人公、アキオ役の吉井一肇さんによる映
画挿入歌『お菓子と娘』のアカベラ披露など、約 400 名の参加者に感
動を伝えました。



PCY ピースカンファレンス（世界連携推進委員会）

13:30～16:00 コスモスクエア国際交流センター OBP 特設会場
PCY2011 の集大成である「ピース・カンファレンス 2011」を開催。
世界 11 国から学生を集め、「恒久的な世界平和の実現」をテーマに、
活動の展示やフリートークで交流を深めました。また、NPO 法人国連
UNHCR 協会事務局長・高嶋由美子氏、send to 2050 project 代表・
森下雄一郎氏に講演いただきました。



大阪的グルメグランプリ（民意確立委員会）

16:00～20:30 大阪城西の丸庭園
お好み焼き、タコ焼きなど大阪で当地グルメはもちろん、スイーツ、沖
縄料理等、食いだおれ大阪の幅広いジャンルの名店 50 店が大阪城西
の丸庭園に集結！ フードはチケット制で全てワンコイン（500 円）、
チケットを最も獲得したお店に大阪的グルメグランプリの賞が与えら
れます。大勢の市民の方が参加してくださり、大盛況でした。



大阪城城灯りの景（大阪城・上町台地エリア魅力創出実行委員会主催）

17:00～21:00 大阪城本丸広場・西の丸庭園
約 2 万個のろうそく行灯が灯され、幻想的な灯りに浮かぶ大阪城天守閣
を一目見ようとたくさんの来場者が訪れました。

閉会式
大阪的グルメグランプリ 表彰式
20:30～21:30
大阪城西の丸庭園 特設ステージ
神戸牛専門店 吉祥吉さんが見事グラ
ンプリに輝きました！



1月

- 14日 チュニジアの独裁政権が崩壊
22日 宮崎で鳥インフルエンザ
22日 無人補給機 HTV の打ち上げに成功
25日 ムバラク大統領の退陣を求めデモが発生



チュニジア共和国のベン＝アリー大統領（当時）が国外へ亡命、23年以上に渡る独裁政権が終わりを迎えた。この一連の民主化運動の影響は、エジプトや他のアラブ諸国へと広がっていった。

4月

- 1日 上野動物園でパンダの公開始まる
10日 東京都知事選で石原慎太郎氏が当選
12日 福島第一原発事故レベル7に
29日 イギリスのウィリアム王子が結婚



2月

- 1日 天然ウナギの卵採取に成功
11日 エジプト・ムバラク大統領の辞任発表
17日 若田光一氏が ISS 船長に
22日 ニュージーランドで大地震
26日 京大の入試問題がネットに流出



5月

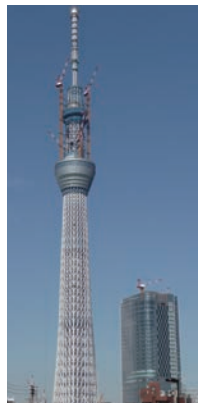
- 2日 ウサマ・ビンラディン容疑者殺害



アメリカのオバマ大統領は、2001年のアメリカ同時多発テロの首謀者とされていたウサマ・ビンラディン容疑者を殺害したことを発表。

3月

- 11日 東日本大震災発生
18日 東京スカイツリー高さ 634 mに



6月

- 8日 古川聡飛行士がソユーズで宇宙へ
11月22日 地球へ無事帰還
20日 スーパーコンピューター「京」世界1位に
24・26日 小笠原諸島と平泉が世界遺産に登録



7月

- 17日 FIFA 女子ワールドカップで「なでしこジャパン」が優勝
24日 地上デジタル放送に完全移行



picture alliance/ アフロ

8月

- 15日 「原子力安全庁」を環境省に設置
19日 円高戦後最高値 1ドル＝75円台に
23日 リビアのカダフィ政権崩壊



42年にもおよぶカダフィ政権に対する反政府行動が続いていた北アフリカのリビアで、反体制派が首都トリポリを制圧。逃亡を続けていたカダフィ大佐は、2011年10月、故郷のスルトにおいて死亡が確認された。

9月

- 2日 野田佳彦内閣が発足
30日 緊急時避難準備区域が解除される

10月

- 5日 スティーブ・ジョブズ氏死去
20日 タイで大規模な洪水が広がる
31日 世界の人口が70億人に到達



(写真提供：Matt Yohe)

1976年にアップル社を設立し「マッキントッシュ」など世界的なヒット商品を次々と発表。その死は世界の人々に驚きと悲しみをもたらした。

11月

- 6日 ギリシャのパパンドレウ首相が辞任
8日 イタリアのベルルスコーニ首相が辞任を表明
11日 野田首相、TPP 交渉参加の方針を表明
13日 「ホノルル宣言」が採択される

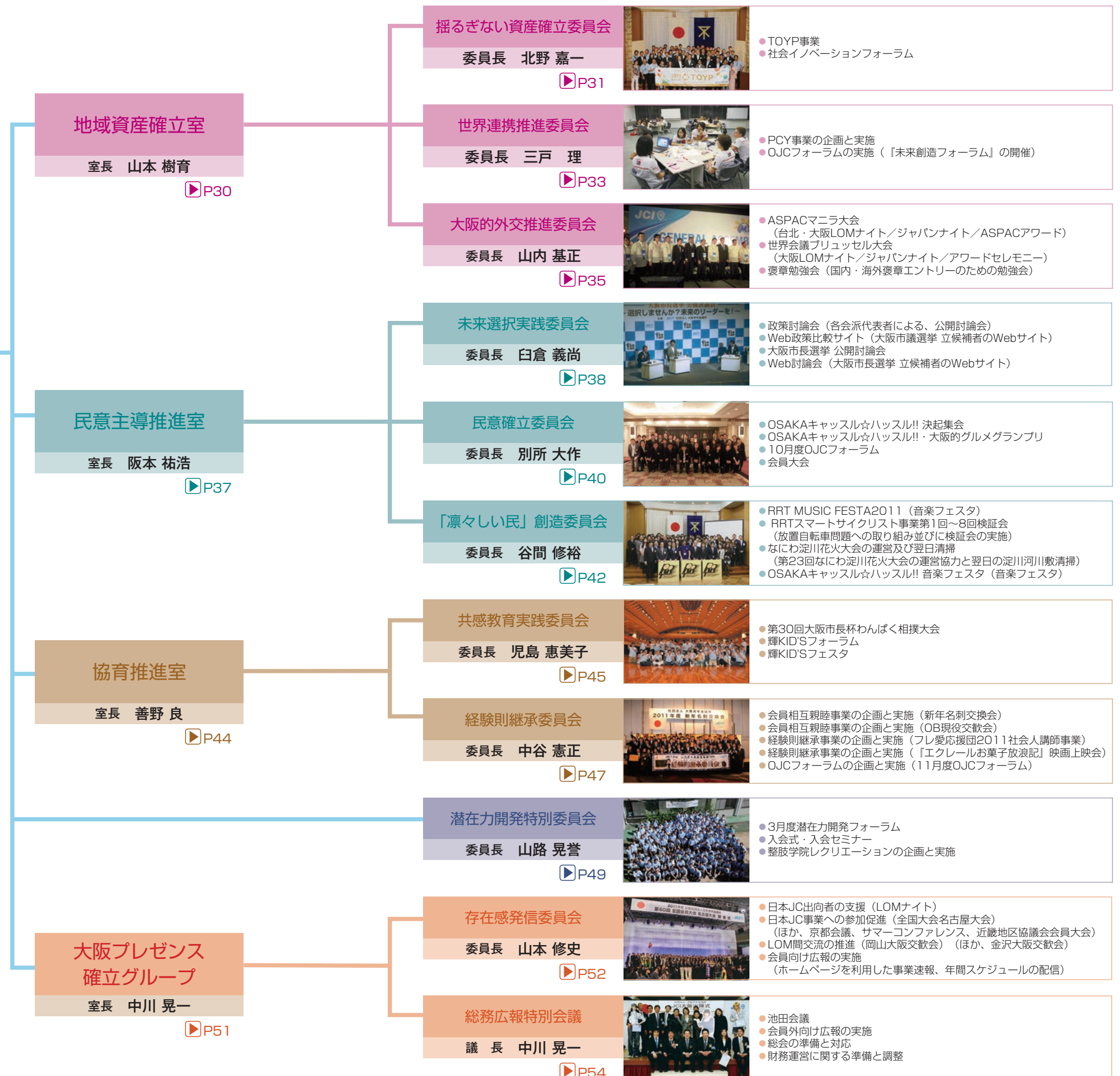
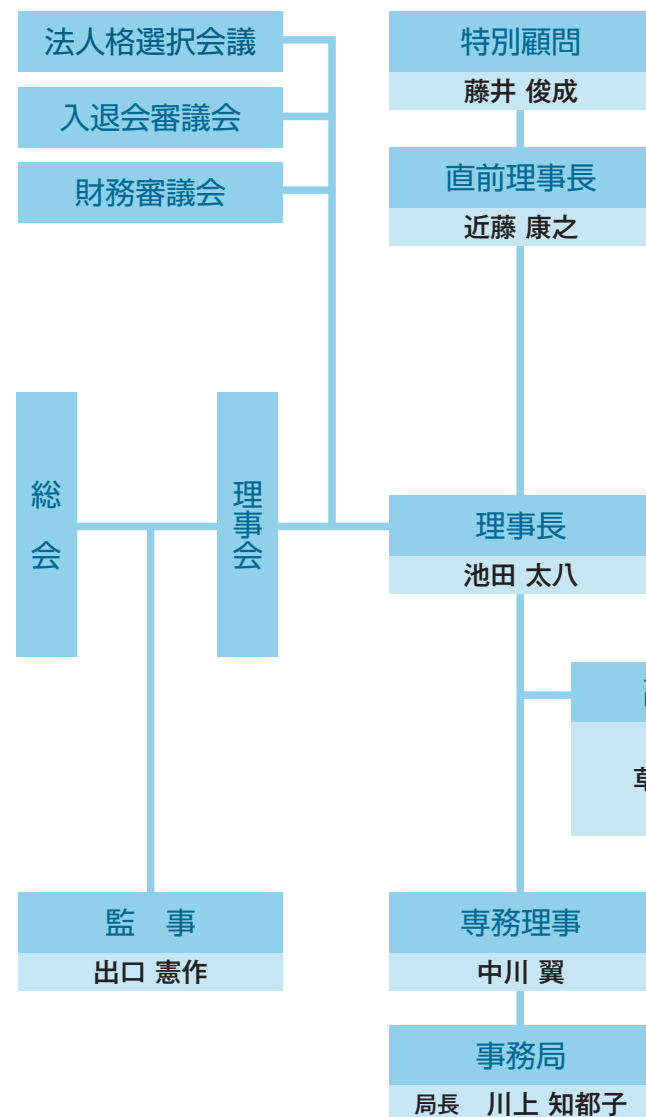
※記事の内容は2011年12月1日時点のものです。

2011年ヒット商品 (SABC コンサルティング発表『2011年ヒット商品番付』より抜粋)



- スマートフォン
- なでしこジャパン
- Facebook / Twitter
- 『マル・マル・モリ・モリ!』
- 九州新幹線
- 第3のエコカー
- AKB48
- ジュレ状ほん酢
- ボーイング 787





「凛々しいまち大阪」
の実現のために
～為すべきことを為し、
現実世界に自ら歴史を刻もう～

地域資産確立室

District Asset Establishment Department

繋がりで築かれる資産を
大阪のまちに！！

我々の想い、行動が、
有機的な繋がりを築く



室長 山本 樹育
Shigenari Yamamoto

本年は、常任理事 地域資産確立室 室長として、「凛々しいまち大阪の実現」をめざして参りました。

地域資産確立室では、「繋がりで築かれる資産を大阪のまちに!!」をテーマに、社会を構成するメンバーである組織や個人は決して単体で存在しているのではなく、社会や世界を創造していく一員であり、その有機的な繋がりがこそが大阪のまちにとっての資産になると確信して活動を行ってまいりました。

社会を構成するメンバーである、企業やNPOなどの組織や個人は、それぞれの公(おおよけ)の存在としての責任を果たし、社会全体を広い視野から見て関係するもの全てに新たな価値を見出し、それぞれがお互いを補完し合って共に利をもたらしながら長期的に発展していかなくてはなりません。

当室では、大阪のまちに上記の資産を築くべく、揺るぎない資産確立委員会、世界連携推進委員会、大阪的外交推進委員会の3委員会がそれぞれの運動を推進してまいりました。

揺るぎない資産確立委員会では、JCI大阪に30年にわたって継続されている伝統事業であるTOYP(The Outstanding Young Persons)事業を中心として、社会のために持続的に価値を生み出していくことを理念として掲げ、関係するものに価値を生み出していく、持続可能な仕組みを持って世界中で活躍している社会イノベーターをピックアップし、大阪のまちに必要な資産の要素を広めました。

そして、世界連携推進委員会では、2010年より開始したPCY(Peace Conference of Youth)を中心に事業を展開してまいりました。PCYでは、世界の未来を担う日本の学生と世界中の学生たちが寝食を共にし、様々なプログラムから、世界と歴史の繋がりの中で生きている自分たちについて気づきを得て、我々が世界の未来のためにできることは何かを考え、共に行動へと移し、未来へと繋ぐための基礎を築きました。

さらに、大阪的外交委員会では、JCI大阪メンバー、大阪市民、世界を構成する一員として、まずは自らが果たすべき責任を果たすとともに、世界中のJCIメンバーを対象として単に親交を深めるのではなく大阪の特徴を加えた外交を行い、世界中のネットワークを活かして新たな繋がりを築き、その繋がりがから新たな価値を見出して参りました。

地域の資産となるのは、決して組織や個人単体ではありません。それらが有機的に繋がってこそ資産となります。しかしながら、その繋がりを築くのは我々自身です。まちのために我々ができることは何か、その想いが行動へと移り、繋がりが形成されていき、まちの資産となるのです。本年の我々の運動が、引き続き大阪のまちに資産を生み続けることを祈り、一年間のまとめとさせていただきます。



揺るぎない資産確立委員会

Secure Asset Establishment Committee

委員会基本方針

私たちは、時間と空間の広がりの中で存在している当事者としての責任を相互に全うし、互いに協力し合い未来を俯瞰的な視野から見据え、結び付けられた者同士が新たな吸引力を持ち、これからの時代に対応した公の価値を生み出す確固たる繋がりを築きあげます。



日 時：9月9日(金)～13日(火)
場 所：大阪市阿倍野区民センター
他
参加者：計画 300名
結果 334名

TOYP 事業

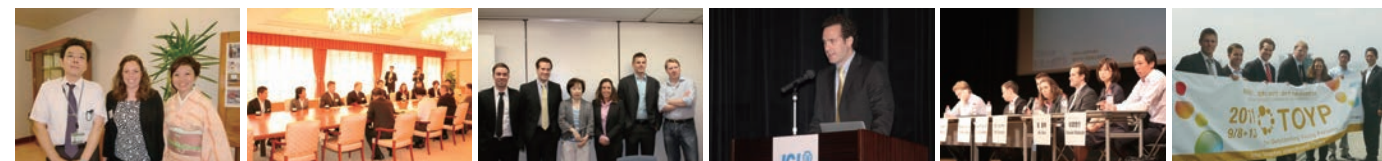
海外から傑出した青年を日本へ招聘し諸外国との民間外交として、30年前から大阪青年会議所が主催する事業であり、本年度は“社会イノベーター”をテーマに事業を実施しました。参加者が334名と、計画を上回る方々に参加頂き、学生を中心に未来を担う若者に勇気を与えることが出来ました。反省点としては、社会イノベーターを生みだすところまでは至らなかった点です。【工夫した点】確固たる繋がりを確立するために、TOYPメンバーとの交流を中心に事業を実施。



日 時：8月27日(土)
場 所：松下IMPホール
参加者：計画 180名
結果 119名

社会イノベーションフォーラム

社会イノベーターを周知すると共に、未来を創り上げる当事者としての責任感を醸成する事業です。事業を通して、多くの参加者に社会イノベーターの存在や役割について理解して頂けましたが、参加者が当初予定の180名に到達できませんでした。【工夫した点】NPO法人フローレンスの駒崎弘樹氏にご講演を頂くことで社会イノベーターを身近に感じて頂いた。





社会イノベーターとグローバルに社会を見る

本年度揺るぎない資産確立委員会では「社会イノベーター」をテーマに、30年目を迎えた大阪青年会議所の継続事業であるTOYP事業及びOSAKAキャッスル☆ハッスル!!内において社会イノベーションフォーラム事業を行いました。私たち日本人は2011年3月11日に発生した東日本大震災を決して忘れてはなりません。年齢・性別・地位に関係なく襲い掛かる大地震・大津波。一瞬にして失われた多くの尊い命は、私たちに「今こそ、この苦難を国民が一丸となって乗り越え、さらに素晴らしい国へと生まれ変わらなければならない」という想いを持たせてくれました。

社会的な問題をビジネス的な手法を使って解決を行う「社会イノベーター」がこれからの大阪そして日本を牽引する存在であると確信を持って訴え続けて参りました。2011年度のTOYPにおいても、海外から傑出した社会イノベーターを招聘し、日本の社会イノベーター及び学生との交流を深めることなど、グローバルな視点で社会の問題は解決すべきであると結論を見出せました。

未来の日本を背負う若手社会イノベーターの皆様と共に、日本、世界で起きている社会的課題を共有し合い、そして、我々が解決すべきこれらの課題を克服し、未来を創る当事者としての責任を全うすることがこれからの日本や世界との良好な関係をも創造することが出来ると確信しております。

また、社会イノベーションフォーラムにおいては、社会を変革するためには、身近な問題を社会全体で考え、そして自分に出来ることを各々が努力し、そしてそれを積み重ねて達成できると感じて戴きました。社会全体から一個人を見つめ直す機会となったと確信させて頂きました。



委員長 北野 嘉一
Yoshiichi Kitano

STAFF

委員長 北野 嘉一	副委員長 青山 修司	委員 岩出 和哲	奥野 正己	小林 洋子	田中 利和	西山 茂	堀江 雄一郎	山本 貴則
幹事 荒木 清樹	岡田 智文	于 敦彦	奥村 果瑞宮	佐々 一樹	津守 克洋	早川 久美	前田 征道	山本 榮克
昭野 元宏	河野 尚樹	上島 明	小田 和幸	佐々木 雅蓮	道風 真里子	林本 大	松下 正平	山本 真基子
田中 大介 (10)	竹内 健祐	江口 雄三	小野山 匠海	信田 光晴	富田 浩崇	原田 智子	丸山 浩介	横野 智彦
中村 宜嗣	森下 雄司	延命寺 健志	梶川 健介	白川 謙三	中井 章裕	東川 勝	光枝 良明	
		岡島 真澄	加納 琢也	田尾 耕太郎	中居 由男	平松 知也	南 収平	
		小川 孝史	久我 隆一	田中 大介 (09)	永田 弘光	深井 光雄	森田 紀美	
			小池 竜平	田中 崇公	中村 義毅	福地 真也	山田 英範	



世界連携推進委員会

Global Cooperation Promotion Committee

委員会基本方針

私たちは、歴史の流れと世界の広がりからなる物語の一員であることを自覚し、為すべきことを為すという気概を持ち、人類共通の目的を共有し、信念を持って輝く未来のために新たな一步を刻み続ける人びとをまちから世界へと送り出す確固たる礎を築き上げます。



日 時：8月23日(火)～29日(月)
場 所：コスモスクエア国際交流センター、OBP特設会場
参加者：計画 市民400名
結果 市民312名



日 時：6月11日(土)
場 所：森ノ宮ビロティホール
参加者：計画 1000名(市民500名、講師2名、JCメンバー498名)
結果 732名(市民397名、講師2名、JCメンバー333名)

PCY事業の企画と実施

世界11カ国から24名の学生を集め、世界平和の為に自分たちに何ができるのかを「世界の貧しい国の水問題」に絞り語り合い、アクションプランを作成、既に平和の為に行動している講師をお呼びして一般に公開したカンファレンスでアクションプランを発表致しました。

【工夫した点】2010年PCYメンバーにもパーティの企画やディスカッションのアシスタントとして参画してもらい、JCメンバーや2011年PCYメンバーとの交流・関係構築を図り、事業の円滑な運営と成功に繋げた。ピースカンファレンス会場において、PCYの協力団体の紹介ブースを設営、PCYへの協力者、興味を持つ人を増やした。

OJCフォーラムの実施

(『未来創造フォーラム』の開催)

アースマラソンで世界を一周してきたばかりの間寛平さんと企業として社会貢献を実践している日本ボリグルの小田兼利会長を講師にお迎えし「未来創造フォーラム～世界と日本のために私たちができること～」を開催、世界の現状を知り、恵まれた国日本に住む私たちにも世界で苦しむ人たちのために何か出来ることを考え行動する意欲を醸成致しました。





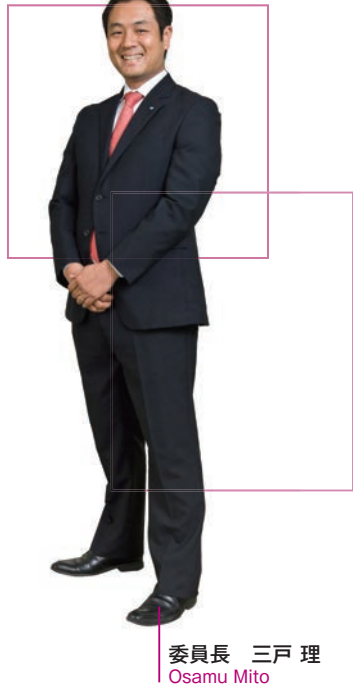
平和のために行動できる人を増やす～「水の問題」をテーマに～

世界連携推進委員会は、「恒久的世界平和」をテーマに、大阪の一般市民を対象とした未来創造フォーラムと、昨年から始まった PCY（ピースカンファレンス・オブ・ユース）事業を行いました。

昨年度は PCY の行動指針となる「世界学生平和憲章～ The Charter of PCY ～」を作成しましたが、本年はその憲章に基づき、平和のために行動を起こす人々を増やして行く為に一年間活動して参りました。活動テーマを世界中全ての人間が生きて行く上で等しく必要な「水の問題」とすることで、国籍や文化、宗教、性別、年齢の違う全ての人々が自分事として問題を共有することができ、その問題の解決について語り合い行動することができると考え活動して参りました。

未来創造フォーラムでは、今年 1 月にアースマラソンを走り終えた間寛平氏と企業として貧しい国々の水の問題解決に取り組む日本ポリグルの小田会長のお二人を講師に迎え、市民に対し、世界に目を向けその実情を知り、世界で苦しむ人たちのために自分たちにも出来ることを行うことの大切さを伝えました。

第 2 回 PCY では、国内外 24 人の大学生を集め、1 週間に亘り様々なプログラムを行い、世界の全ての人が清潔できれいな水を手に行ける社会を作る為に行動するアクション・プランを作成致しました。最終日には既に社会を変えるために活動している森下雄一郎氏、高嶋由美子氏を基調講演者に迎え、ピースカンファレンスを開催し PCY メンバーが自らが作成したアクション・プランを発表、2012 年 3 月 22 日の世界水の日に向けて行動して行く事を宣言しました。彼らは自ら行動するだけでなく、平和のために自分たちにできることを行うことが大切であることを周りに伝え運動を拡げて行くリーダーとなることを確信致しました。



委員長 三戸 理
Osamu Mito

STAFF

委員長 三戸 理	副委員長 小澤 高行 川上 確	委員 青野 剛暁 青山 達至 石川 哲朗 和泉 恵幸 今田 晴久 内田 真一郎 大東 俊也	大南 勝範 岡田 健次良 河田 有世 菊岡 道行 北側 雅勝 清岡 義教 黒田 淳子 越田 泰生	児島 篤志 後藤 大悟 小森 省吾 阪野 絵理 塩田 祐大 塩山 知之 清水 忠 角倉 力	田口 善隆 田中 裕三郎 田中 有美子 谷川 安德 谷間 真裕 玉木 智哲 中川 正義 中川 貴嗣	中嶋 啓介 中村 恒太 中屋 昌太 野田 貴浩 橋村 勝祐 林 桂三 髭 義隆 姫嶋 大輔	福家 一憲 藤田 恭子 三戸 淳 皆川 友範 村尾 尚太郎 村治 規行 盛田 悟史 山岸 久朗	山口 良里子 山崎 豊和 吉田 拓 吉田 義章 依田 雅 渡邊 敬介
--------------------	------------------------------	---	---	--	--	--	--	---



大阪的外交推進委員会

Osaka Foreign Policy Promotion Committee

委員会基本方針

私たちは、今の時代や社会に合った大阪のエッセンスを含み、それぞれが帰属する国際的な組織の一員としての誇りを持ち、目標をめざして協力し取り組み、常により良い未来に向かって共に新たな価値を生み出す、互いのまちに有益な友好関係を強化していきます。



日 時：5月26日(木)～29日(日)
場 所：マニラ
参加者：計画 200名 結果 169名



日 時：11月1日(火)～5日(土)
場 所：ブリュッセル
参加者：計画 120名 結果 86名

ASPAC マニラ大会

(台北・大阪LOMナイト／ジャパンナイト／ASPAC アワード)

LOM ナイトでは台北クイズ、ジャパンナイトでは「関西風うどん」の提供と異なる価値観を互いに理解しあえました。アワードには、エントリーだけでなく多くのメンバーがセレモニーに参加しました。LOM ナイトでは、個々の持つ情報を共有するために、交流の持てる座席を検討しましたが、通訳等のアテンドが充実できませんでした。【工夫した点】LOM ナイト(初めての試みとしてシスターJCとの交流を実施)／ジャパンナイト(食文化をテーマにうどんのトッピングで交流を図る)／ASPAC アワード(エントリーに至るまでの勉強会を開催)

世界会議ブリュッセル大会

(大阪LOMナイト／ジャパンナイト／アワードセレモニー)

ジャパンナイトでは、大阪のまちの雰囲気再現し大阪の食文化を体感していただくことで、異なる価値観を世界中の人々に認知していただきました。ただ、食品の調理・配布が多忙となり、個々の持つ情報の共有がじゅうぶんにできませんでした。【工夫した点】ジャパンナイトでは、大阪の雰囲気を楽しみながら、その場で大阪の味を堪能できるブースを設置、世界中のメンバーに大阪の存在感をアピール。アワードセレモニーはほぼすべてにエントリーした。





日 時：3月11日（金）～10月6日（木）
場 所：大阪JC事務局
参加者：計画 40名
結果 40名

褒章勉強会

（国内・海外褒章エントリーのための勉強会）

ASPAC・国内褒章において、すべてのカテゴリーにエントリーできました。世界会議のエントリーにはほぼすべてのエントリーを行いました。

【工夫した点】国内・海外褒章にエントリーするために先輩を講師に招き、JCの基本的な考え方から褒章エントリーに至るまでをサポート。



今の大阪的エッセンスを大切に、誇りをもって行動

本年度、大阪的外交推進委員会は国際的な組織の一員としての自覚を持って、JCI大阪の国際窓口として、シスターJCを始めとする海外LOM・NOMとの友好的な繋がりを深める為に行動して参りました。

ASPACマニラ大会（5月）では、多くのメンバーに国際会議に興味を持って頂けるようシスターJCである台北JCと共同LOMナイトを開催し、昨年世界会議を主管したLOMとして多くの意見交換や交流を図ることが出来ました。

また、ジャパンナイトでは大阪の食文化を海外LOMのメンバーに体感して頂き、幅広い文化の発信を拡げることが出来ました。

更に、ASPACアワードの全てのカテゴリーにエントリーし、諸先輩の指導の下、褒章勉強会を開催させて頂きました。JCの根本を理解し、行われた事業を精査し発表することで、JCI大阪の活動を世界中のLOMに発信できました。

ブリュッセル世界会議（11月）において、国際的な組織の一員としての意識を持って頂ける為に、総会や各種ファンクションに参加して頂き、JCIの活動やその意味を理解して頂きました。

ジャパンナイトでは大阪の町並みや習慣をブースに再現し、大阪の食文化を提供することで、大阪の存在感を高め大阪的外交が推し図れました。

そして、褒章勉強会を継続し世界会議アワードのほぼ全てのカテゴリーにエントリーすることが出来ました。

私たち大阪的外交推進委員会は、今の時代や社会に合った大阪的エッセンスを含み、JCI大阪メンバーである誇りを持って模範的な姿を示し、より良い未来に向かって共に新たな価値を生み出す、互いのまちに有益な友好関係を強化することで、大阪のまちの更なる発展に寄与することができ、メンバー一人ひとりが高邁なる人格を養うことが出来たと考えます。



委員長 山内 基正
Motomasa Yamauchi

STAFF

委員長 山内 基正 幹 事 金光 由香理 河田 英之 須磨 勇 原 英彰	副委員長 今井 茂博 大西 利香子 葛井 啓三 合田 竜太 祖慶 良法	委 員 青木 慎次 芦田 大輔 芦谷 光一 石井 直人 石津 弘徹 泉田 裕史 伊藤 良夏	太田 樹弥 大野 英昭 長村 みさお 金山 忠広 川原 清多 久世 雅樹 倉岡 七恵 小林 孝行	坂井 政一 下田 大高 鈴木 隆介 田中 亜渡夢 樽谷 隆弘 坪内 敦則 鶴谷 秀樹 富永 直樹	中井 敏 中川 興一 中川 知子 中谷 公彦 中村 祥二 西原 永介 濱口 忠 林 昌宏	範舎美 ロニール 日根野谷 裕一 平原 和之 福田 大輔 堀越 博一 曲田 陽一 間嶋 靖典 益田 治子	松本 匡史 丸石 勝也 宮崎 宗行 宮下 致男 森西 聖 山内 理子 山崎 克将 山崎 誠也	山崎 由佳 山本 豊恵 湯浅 靖 吉嶺 亜希子
--	---	---	---	---	---	---	---	----------------------------------

民意主導推進室

Public Opinion Leadership Promotion Department

今こそ民の声を！
期待感溢れる未来のために！

自らの意思で行動できる民が
活躍する社会をめざして



室長 阪本 祐浩

Masahiro Sakamoto

本年度、「凛々しいまち大阪の実現」をめざし、民意主導推進室では「今こそ民の声を！期待感溢れる未来のために！」をテーマに掲げ、大阪のまちの現状を的確に捉え、一人ひとりが持っている役割と責任を理解し、一人ひとりが当事者である意識を持ち、自らの意志で積極的に行動できる民が活躍する社会が必要だと考えました。そのために、自らの取りまく事柄は自らが創出している事実を知り、今のまちは先人達によって築かれてきた事実を把握し、今を生きる世代としての役割を理解し、自らの意志で多くの人と積極的に関わり、期待感溢れる未来へ「今為すべきことを為す」凛々しい人びとを増やすことを目的に一年間を通じて運動を展開して参りました

そして、住み暮らすまちの成り立ちに背を向けず向かい合い、自分自身の取りまく事柄をしっかりと認識し、何ごとも自分事として興味や関心を抱き、世間の感情的な情報に流されず、民の意志が反映できるように公開討論会やWeb公開討論会を通じて、選挙に立候補しようとする人びとの生の声を多くの方々に届け、自らがまちの当事者として求知心を高めてもらいました。また、過去に捉われる事無く現状のまちの姿を踏まえ、より良い未来は他人が創ってくれるものではなく、今を生きる一人ひとりの意志と行動で築き上げていかなければならない事実を理解し、多くの人びとともに力と想いを合せてOSAKAキャッスル☆ハッスル!!を開催し、参加して頂いた多くの方々により良い永続的な未来のまちへ導く構想力を培って頂きました。さらに、今を生きる者として一人ひとりが利己的な考えを持つのではなく、あらゆる人びとと共生して行く想いを抱き、自らを律し己の意志と知恵を他人のために発揮し、RRTスマートサイクルや淀川花火大会を通じて、多くの人びとに自らの意志で判断する意欲を持って頂き、まちのために積極的に行動できる人びとを増やしつづけることができました。そして、「凛々しいまち大阪の実現」のために行ってきた運動の全てを確認し、成果を知り今為すべき事柄を理解し、未来のまちへ新しい歴史を創造していく確固たる意志を生み出せました。

民意主導推進室のテーマである、「今こそ民の声を！期待感溢れる未来のために！」を各委員会の事業に対してメンバーとともに一丸になり無事に終えることができ、凛々しい民をまちに多く増やす事ができ「凛々しいまちの大阪の実現」の一助とすることができました。

最後に、一年間を通してお世話になりました行政、各種団体、個人の方々に心より感謝を申し上げますと共に、本年度以降もより一層のご配慮を賜りますようお願い致します。

本当に一年間ありがとうございました。





未来選択実践委員会

Future Selection Implementation Committee

委員会基本方針

私たちは、先人達の創り上げてきたまちの成り立ちや、自らの周りに起こっている様々な事象を踏まえ、未来のまちの当事者として強い興味と関心を持ち、まちは自分たちが切り開く意欲を携え、未来の創造者として意志と知恵をもって判断する力を生み出します。



日 時：2月18日 (金)
場 所：サンケイホールブリーゼ
参加者：計画 800名
結果 655名
U-stream 549名



日 時：3月16日 (水)～4月18日 (月)
場 所：OJC／HP
参加者：計画 100,000アクセス
結果 123,435アクセス

政策討論会 (各会派代表者による、公開討論会)

各会派代表の政策について熱く伝えて頂いたことで、多くの市民がまちの実情や事項を話し合う機会に触れる事により、理解していただきました。また、数多く的大阪市民が政策討論を聞き、比較検討できる機会に積極的に参加することにより、未来の創造者として意思と知恵をもって判断する力を養いました。
【工夫した点】各政党が公平に発言できる公開討論会を開催。また広報活動において新聞広告掲載、チラシ配布と従来の手段の他にTwitter, Facebook という最新のコミュニケーションツールを活用。

Web 政策比較サイト (大阪市議選挙 立候補者の Web サイト)

インターネットを多く利用する若い住民に発信することで、未来のまちの当事者として興味と関心をもってもらうことができました。サイト内をじっくり何度も確認するユーザが多く、候補者の考えを聞く場として利用された結果、未来を切り開く意欲を持ってもらうことができました。ただ、年配層の候補者は、地域密着型の選挙活動を重視するということで断られ、無所属議員、新人議員候補は他の仕事を持っていることが多く、電話、FAX、メールなど複数の手段によって連絡を取ったが、当サイトについて取り合ってもらえませんでした。
【工夫した点】1件1件選挙事務所を回る地道な活動により、96人もの候補者のデータを集めることに成功。



日 時：11月12日 (土)
場 所：梅田センタービル・梅田クリスタルホール
参加者：計画 600名
結果 550名
U-stream 219アクセス
ニコニコ生放送40,579アクセス



日 時：10月27日 (木)～11月27日 (日)
場 所：OJC／HP
参加者：計画 120,000アクセス
結果

大阪市長選挙 公開討論会

多くのメディアに取り上げてもらう事に力をいれました。また、ネット経由で同時中継することで、より多くの市民の方に見て頂けるようにし、判断する為の一助になりました。

Web 討論会 (大阪市長選挙 立候補者の Web サイト)

大阪市民から約 2,000 枚のアンケートを取得し、有権者の興味のある質問を精査し、候補者にサイト内で答えて頂きました。

大阪市の今後を「判断する力」を生み出すことを使命として

本年、「凛々しいまち大阪の実現」をめざし、「判断する力を生み出す」為に、未来選択実践委員会の委員長をさせて頂きました。

昨今、「自分に直接利害がからむこと」にしか興味を持たず、社会や近隣住民に無関心であったり、人とのコミュニケーションを避けようとする人びとが増えているように思います。その傾向は特に 20 代から 40 代までの若い世代に強いことが、東日本大震災直後に行われた東京都知事選挙の投票率などにはっきりと表れています。

大阪の成り立ちは、商人や町人たちが、互いにまちの未来について意見を交わし、自分の利害にとられず、どのようなまちにするか、どこに橋を作るかといったテーマについて、真剣に考え、率直な意見を交わし理想的な都市「大阪」をつくりあげてきたところにあります。こうしたまちに対する熱い思いは時代の流れとともに、どんどん失われているように思います。

このような状況において、我われの使命は、大阪に住み暮らす人びとに大阪市の今後について、「判断する力」を生み出すことだと思いました。そして、そのためには、まず判断するための材料となるべき、「事実」を正確に、市民、とりわけ若い世代に伝えるとともに、その「事実」がいかに重大なものを繰り返し伝えていくことが肝要だと認識いたしました。

インターネットの利用はもはや当たり前で、更にツイッターや SNS の利用が普及する現代、未来選択実践委員会は、インターネット・ツイッター・フェイスブックの相異なる 3 つの媒体を用いて、大阪市民に対し、大阪の成り立ちや現在抱える問題点などについて、選挙の有無にかかわらず繰り返し発信し続けました。また、大阪市議会議員選挙においては、各政党の方針を市民にわかりやすく伝えるため、大阪市長選挙では、各立候補者の方針を伝えるため、公開討論会の形式で、それぞれの意見と、その違いを市民に伝える活動を 1 年間継続しました。

私たちのまちを創るのは、私たちの民意です。皆さまの、判断の一助として頂けたと確信致しました。

最後に、本年度お世話になりました、皆様方に心より感謝と御礼を申し上げます。



委員長 白倉 義尚
Yoshinao Usukura

STAFF

委員長 白倉 義尚	副委員長 大野 育生 岡本 良太 杉本 智則 河東 猛 赤代 理史 寺岡 龍朗 森田 哲通	委員 芦田 如子 石井 博司 石丸 敏正 植田 充泰 梅木 貴喜 遠藤 学 大村 雅祥	岡田 健 岡田 充弘 岡田 善照 置田 浩之 奥 真一郎 尾崎 宏明 金谷 光憲 河田 康昌	川又 充 橋高 和芳 児玉 一蔵 渋谷 元宏 島村 真以 正田 智也 白井 達也 瀬川 文武	高橋 顕明 高橋 雅史 辰巳 剛史 樽居 賢治 徳村 聡 中西 基晴 中野 義晃 中村 桂	二宮 彰久 濱田 拓矢 濱野 裕司 東原 栄志 日吉 慶三郎 深田 博司 福井 隆浩 福本 義人	藤村 一朗 藤本 勝仁 藤原 雅之 松本 直高 宮崎 真典 村上 浩二 望田 謙三 森 晃之	門司 秀晃 山佳 誠秀 湯浅 史高 米村 栄一 和倉 康博
---------------------	---	---	---	---	--	---	---	---





民意確立委員会

Public Opinion Establishment Committee

委員会基本方針

私たちは、大阪のまちに対する誇りや愛着から生み出される、現状を偽りなく的確且つ冷静に捉え、まちに新たな風を吹き込む価値観を携え、未来のまちは自らが築く強い責任感を伴った、まちを大胆に創造するフロンティアスピリットを広く呼び起こしていきます。



日 時：8月26日（金）
場 所：ホテルニューオータニ
参加者：結果 361名



日 時：8月27日（土）～28日（日）
場 所：大阪城西の丸庭園
参加者：計画 30,000名
（一日あたり）
結果 52,000名

OSAKA キャッスル☆ハッスル!! 決起集会

参加人数が当初予定よりも2割も多い361名来ていただくことができ、翌日からの OSAKA キャッスル☆ハッスル!! に向けて、大阪青年会議所として一丸となるきっかけにできたと思います。反省点としては、各委員会がどういった事をそれぞれ行うのかを全メンバーに伝えきれなかった点です。

【工夫した点】OSAKA キャッスル☆ハッスル!! 前日ということもあり、参加人数が少なくなるのではとの懸念があったため、行ってみようと思ってもらえるような内容を考えて。また、全委員会が翌日より別々の行動となってしまうため、大阪JCIが全体としてどういったことを行うのかを伝えられるような内容を考えて。

OSAKA キャッスル☆ハッスル!!・大阪的グルメグランプリ

大阪市が主催する「大阪城灯りの景」との共催イベント。大阪のまちにある有名飲食的50店舗を募り、「食を通じて大阪を元気に!」と広く市民の参画を促しました。

【工夫した点】集約事業として同一期間に近隣地域で様々な事業を同時展開したため、広く運動発信に繋がった／出店店舗の募集・選定には雑誌社の協力を仰ぎ、有名店の参加を促進／大阪市主催「大阪城灯りの景」と共催、より多くの集客を実現／広報には上記雑誌に加え、FMラジオ放送を利用、あわせて集客に繋がった／統一価格、チケット制での販売により、公平な競争、スムーズな集計管理を実現できた。



日 時：10月20日（木）
場 所：帝国ホテル大阪
参加者：計画 435名 結果 482名

10月度OJCフォーラム

既存のアイデアや世の中を少し違った視線で見つめることにより、新たな価値観を生み出した経験談や実際の事例のお話を、自ら実践されたリーダーである岩崎夏海氏にご講演いただきました。メンバーのモチベーションの向上や新たなアイデアの発想の一助となる機会を得られたとのこと意見をいただきました。

【工夫した点】会場を前年度月例会会場である帝国ホテルとしたこと／各委員会が実施した事業の参加者に対するインタビュー映像による事業報告／大阪的グルメグランプリ優勝料理と帝国ホテル大阪の食事の提供



日 時：12月6日（火）
場 所：リーガロイヤルホテル大阪3階（光琳の間）
参加者：結果 600名（OB含む）

会員大会

一年の締め括りである本大会。現役メンバー、OB を含む約 600 名が参加くださいました。本年は例年以上にアワード、卒業式がメンバーの心に残るように左右開きの巨大スクリーン、映像も CG を駆使するなど演出に工夫を凝らしました。また、卒業式では歌手の杏里さんを迎え式に花を添えていただきました。



委員長 別所 大作
Daisaku Bessho

STAFF

委員長 別所 大作	副委員長 上田 多一郎 加藤 慶太 櫻井 多美 佐藤 裕介 城阪 千太郎 中村 涉	委員 東 祐希 足立 崇 新井 庸能 有川 陽介 石橋 達也 稻次 啓介 井上 英孝 井上 誠	延堂 修一郎 大浦 徹 岡野 守晃 岡野 泰也 岡本 英俊 小川 徹朗 奥山 淑英 押村 直志 桂 直樹	鳥山 崇 姜 永守 神田 達能介 菊田 智之 木村 雄一郎 楠本 佳弘 五島 良平 小室 豊 税所 直子	杉田 玄白 松田 訓之 鈴木 あかり 鈴木 寛 高井 俊輔 竹下 洋司 伊達 将人 田淵 慎哉 築山 邦男	辻岡 哲也 堀中 学 徳永 智也 中神 明生 中川 和彦 中川 利治 永本 俊秀 西谷 かおり 西出 誉	秦 龍蔵 畑中 学 濱 真司 原 有佳里 平尾 真教 平川 智咲子 福田 ひろし 細井 信秀 堀 志帆	森井 智士 森村 洋右 八木 重治 山口 貴士 山田 泰正 山本 明史 吉谷 泰彰 和倉 久実
---------------------	--	--	--	--	---	--	---	--





「凛々しい民」創造委員会

"Dignified Citizens" Fostering Committee

委員会基本方針

私たちは、先人達の豊かな知恵や様々な経験を規範とし、時代の流れを敏感に感じ取る先取の精神を宿し、将来のまちのビジョンを明確に見据え、何事にも毅然とした姿でひたむきに取り組み、より良い未来を主体者として創りあげる力強い行動力を育んでいきます。



日 時：4月15日（金）
場 所：大阪府立体育会館
参加者：計画 1,000名
結果 921名



日 時：6月～10月
場 所：住吉・淀川・東成区
参加者：計画 1,000名
結果 791名

RRT MUSIC FESTA2011（音楽フェスタ）

【工夫した点】20代30代世代の人々への参加動員のためにターゲットのアーティストを招きステージ上からまちの問題に共に積極的に関わろうというメッセージ発信を同時に行ってもらった。

RRT スマートサイクリスト事業 第1回～第8回 検証会

（放置自転車問題への取り組み並びに検証会の実施）

【工夫した点】行政・地域・学生と共に様々な地域で放置自転車の整理啓蒙を行い、まちで若い世代の人々が活躍する場面を見せ、地域の人にもまだまだ変革することができる気概を感じてもらった。



日 時：8月6日（土）～7日（日）
場 所：淀川河川敷
参加者：計画 1,230名
結果 1,370名



日 時：8月26日（金）～27日（土）
場 所：大阪城周辺
参加者：計画 1,000名
結果 470名

なにわ淀川花火大会の運営及び翌日清掃

（第23回なにわ淀川花火大会の運営協力と翌日の淀川河川敷清掃）

【工夫した点】今年度は、運営をJCだけで行わず、学生を中心としたボランティアを新たに募集し、市民が創る花火大会への興味関心を植え付け、翌日の河川敷清掃にも多くの学生を巻き込んだ。

OSAKA キャッスル☆ハッスル!! 音楽フェスタ

（音楽フェスタ）

【工夫した点】大阪市が行う城灯りの景のイベントの中で、若い世代に人気のあるアーティストからまちへもっと関わることの大切さを発信して、興味・関心をさらに高めた。

人々を巻き込み実践することで、凛々しくなるための一助に

私たち「凛々しい民」創造委員会では、今年一年まちのために主体的に力強く行動をしていこうとする「凛々しい民」を数多く創り出すために、「ミュージックフェスタ」・「スマートサイクリスト事業」・「なにわ淀川花火大会・翌日清掃」の事業を大阪のまちに向けて、運動発信を行ってまいりました。

まず、「ミュージックフェスタ」では、青年会議所メンバーと同世代もしくは若い世代にまちの現状に対して関心を持ち、これから行っていく我々の事業へより多くの人々が参画する意識を高めてもらうために、今の大阪のまちをより良く変えていくのは若い世代が必要であることを音楽やメッセージを通じて伝えていきました。

次に、「スマートサイクリスト事業」では地域の中にある様々な問題に取り組んでいる行政や地域協議会の方々に、学生ボランティアを加えて、まちの問題の一つである放置自転車対策に積極的に取り組み、その活動から自分たちにも大阪のまちに貢献できることがあるのだということを感じてもらうことができました。

そして、「なにわ淀川花火大会と翌日清掃」においては、地域住民で創られている花火大会に参画し、まちを活性化していく力や地域の活動現状を知り、一人ひとりが為すべきことをなすことでまちが盛り上がっていくことの大切さを実感してもらうことができました。

このように年間を通じて、多くの学生ボランティアを事業に巻き込み、地域協議会、行政の人々と共に、地域の問題に対し、自らが先頭に立ち行動をし、そして話し合いを重ねる中で、人々が主体的になっていくための事業を実施することができました。

今後も共に活動した人々を中心にますます凛々しいまち大阪の実現に向け、この取り組みが真価していくことを確信し、今年度ご協力いただきました皆様に対して改めて感謝と御礼を申し上げます。一年間本当にありがとうございました。



委員長 谷間 修裕
Nobuhiro Tanima

STAFF

委員長 谷間 修裕	副委員長 加藤 伸隆	委 員 青木 香織	芋木 太郎	佐川 宏治	芹奈 慶一	田村 俊浩	花木 浩二	山本 菜穂子
幹 事 高橋 康智	遠越 栄一	赤井 美穂	奥村 直謙	芝 健一郎	高橋 大輔	土屋 典子	備前 秀和	吉岡 思洌
出口 一馬	中谷 誠	新井 善久	加藤 元之	島田 恵明	田川 英紀	徳永 真介	前田 修	吉田 幸司
中島 章悟	林 慶人	伊藤 豊	金本 文昭	清水 淳司	武田 智宏	徳久 健作	水島 真輝	渡辺 俊一
山本 健一朗	八木 弘晃	岩本 勝浩	黒川 信弘	杉田 貴志	竹部 鉄平	村井 征文	村川 貴史	
		上田 佳世	小松原 徳人	鈴木 慶	田中 幸子	中島 慶人	山本 恵理	
		大向 仁	坂 昌樹	鈴木 正敏	田中 千代	永田 利隆	山本 紗鈴	
			阪野 瑞穂	世古口 佳典	田中 剛志	西原 広徳		



協育推進室

Cooperative Growth Fostering Department

協育は
未来のまちの力なり！

大人と子どもが強固な絆を
築き上げていくために



室長 善野 良
Ryo Zenno

本年度は、常任理事 協育推進室 室長として、「凛々しいまち大阪の実現」をめざして参りました。

協育推進室では、「協育は未来のまちの力なり！」をテーマに、まちに生きる人たちが各々の担う立場や果たすべき役割をもって互いを支え合い、希望に溢れる未来への夢を描き憧れに向かって一緒に進んでいこうと挑み、使命を果たす活動より得られる互いを理解し信じ合う、強固な絆を共に築き上げていくべく活動を行って参りました。

まちに住み暮らす人びとが築き上げてきた事象を体感し、各々が置かれた立場と果たすべき役割を胸に刻み、次の世代に向け人が持つ様々な個性を融合し、互いを尊重し合い共に未来に向かって飛躍していかなければなりません。

当室では、大阪のまちに上記の絆を築くべく、共感教育実践委員会、経験則継承委員会の2委員会がそれぞれの運動を推進してまいりました。

共感教育実践委員会では、未来に向けたチャレンジ精神を持ちながら行動する意欲を子どもたちに育んでいくために、JCI大阪に30年にわたって継続されている伝統事業であるわんぱく相撲事業を中心として、「輝KID'Sフォーラム」を実施し住み暮らすまちや自らの未来に夢を描いてもらい、手と手を取り合い協力し合おうとする気概を育んで参りました。

また、経験則継承委員会では、大人と子どもが互いを信頼し合える関係を築き上げていくために、大阪市内の各小学校にご協力頂き、個々の培ってきた経験則を活かし前向きに次代の人びとへ引き継いでいく意識を高める為に、JCI大阪メンバー自らが講師となる「社会人講師」事業を中心に行い、積極的に相手の立場を受けとめ尊重する心や、夢の実現に向けて力を合わせ支え合う役割と責任を自覚して貰い、互いを信頼し合える関係を築き上げて参りました。

大人と子どもが強固な絆を築き上げていくには、過去から引き継がれてきた人びとの営みの流れと拡がりで形創られている事実を知り、全ての事柄には必ず自分自身にも関わりがあることを認識し、自らが未来のまちのために当事者としての役割と使命を果たさなければなりません。

本年の我々の運動が、引き続き大阪のまちに絆を築き上げていくことを祈り、一年間のまとめとさせていただきます。



共感教育実践委員会

Cooperative Education Implementation Committee

委員会基本方針

私たちは、住み暮らすまちや自らの未来に対して夢を描き、歴史を築き上げる一員として主体者意識を持ち、異なる価値観を超え、手を取り合い協力し合おうとする気概を携え、未来に向けたチャレンジ精神を持ちながら行動する意欲を子どもたちに育んでいきます。



日 時：5月21日（土）
場 所：大阪府立体育会館
参加者：計画 1,300名
結果 約7,049名
（子ども1,049名・大人6,000名）

第 30 回大阪市長杯わんぱく相撲大会

自らの内に秘めたる無限の可能性を信じ、持てる力をだす誇らしい舞台を通じ、歴史を築き上げてきた先人たちとの共感の機会を提供することで、新たな歴史を自らの力で築こうとする前向きな意識を養っていきます。会場受付にて子ども達の意気込みと、一緒に大会に参加する仲間への応援メッセージを撮影し、会場スクリーンに流すことで、勝負に拘らず一緒に精一杯頑張ろうと共感し、健全で前向きな意欲を育んでいく事ができました。
【工夫した点】マニュアルを精査し、マニュアルを見れば、誰でも設営できるようにした。



日 時：5月21日（土）
場 所：大阪府立体育会館
参加者：計画 1,300名
結果 約3,700名
（子ども1,100名・大人2,600名）

輝 KID'S フォーラム

子ども達が自らの未来には無限の可能性があり、夢を持つことの大切さに気づき、一人一人が未来に向けて自己啓発的に行動していく気概を心に刻み、仲間と共に未来への前向きな意欲を育んでいきます。アンケートの結果と後日、小学校への聞き取り調査により、子ども達がフォーラムの話を友人にし、自分も明日からがんばろうと意欲が育めた事を確認できました。
【工夫した点】オリンピックメダリストの池谷幸雄氏だけでなく、今、オリンピックを目指して頑張っている同世代の子ども達に、演技をしてもらうことで、共感を深め、最後に会場全体が一体となる伝達アートを取り入れた。





日 時：8月28日(日)
場 所：松下IMPホール
参加者：計画 600名
結果 約263名
(子ども132名・
大人131名)

輝 KID'S フェスタ

子ども達が、異なる価値観を超え、未来に向けたチャレンジ精神を持ちながら行動する意欲を育んでいきます。アンケートで 95.2%の子どもが「チャレンジする意欲が湧きました」と回答してくれました。ただし、参加エントリーはしていても、当日参加者がそれよりも少なく、目標人数の集客に達しませんでした。
【工夫した点】ウルトラマンの課外授業で、積極性を持ってもらう為に子どもたちを当てたり、一緒に身体を動かす体操を取り入れた。



子どもたちのチャレンジ精神を育む

当委員会は「未来に向けたチャレンジ精神を持ちながら行動する意欲」を子どもたちに育むための事業を展開して参りました。わんぱく相撲では第 30 回を数え、今後も子どもたちの安全を確保し円滑な運営が実施されるようマニュアルを精査し、子どもが多数集まるこの機会に、被災地の子どもたちへ寄贈するための絵本を応援メッセージつきで募り、被災地の子どもたちと対戦相手へメッセージを会場にて募集し、その映像をスライドショーにして会場で流すことで助け合おうとする潜在的な想いを沸き立たせ、自分の持てる力を出して挑戦しようと意欲が生まれ、相手の気持ちに共感する機会を創造しました。そして、輝 KID's フォーラムを同時開催することで、わんぱく相撲出場者以外の子どもたちが来場する仕掛けを創り、元オリンピック選手に夢をあきらめない大切さをメッセージとして受け取り、同世代でオリンピックを目指して日々努力している子どもたちの演技を見ることで感動し、自分も夢に向かって行動しようとする意欲を育み、来場者全員と一緒に身体を動かすことで体感から共感が生まれ、自発的に行動する意欲を育む相乗効果が生まれました。また、OSAKA キャッスル☆ハッスル!! の中で、輝 KID's フェスタ「宇宙一受けたい授業」を開催し、子どもたちの参加型、体感型授業により、嫌いな勉強も共に学ぶと楽しくなることを体感し、ウルトラヒーローと握手や写真を撮り身近な存在に感じ、未来に向けたチャレンジ精神を持ちながら行動する意欲を育むことができました。ご支援いただきました大阪府教育委員会、諸団体・企業ほか全ての皆様に心より感謝申し上げます。



委員長 児島 恵美子
Emiko Kojima

STAFF

委員長 児島 恵美子	副委員長 岡部 倫典	委員 秋葉 悠基	大内 一孝	白崎 識隆	友成 和史	前田 貴弘	宗川 暢一	吉田 尚敬
幹事 合田 佳史	高田 喜与志	小豆澤 弘人	小川 健一	菅谷 義典	中井 学	増田 敏之	村田 崇	吉村 久
中井 俊憲	田邊 三郎	新井 敏之	河内屋 英徳	節和 寿志	中尾 浩	増田 光均	森 一平	六本 創
水野 竜完	津村 芳雄	荒川 めぐみ	黒松 宏史	高橋 友香	中野 繁明	松任 鎮央	森岡 久晃	渡辺 克哉
山本 浩二	比良 昌弘	石金 正彦	小口 淳也	高橋 良門	中森 章	松本 考代	森田 文治	
		植田 健一	坂口 雅俊	田中 盛雄	野田 智久	丸富 成日	山内 幸祐	
		氏田 裕吉	坂本 貴徳	田中 要輔	東浦 光利	宮本 恵美子	山崎 紀文	
			雑古 彰久	谷口 勝彦	古川 健一郎	三好 一郎	湯田 善規	



経験則継承委員会 Succession of Knowledge Committee

委員会基本方針

私たちは、個々の培ってきた経験則を活かし前向きに次代の人びとへ引き継いでいく意識を高め、積極的に相手の立場を受けとめ尊重する心を持ち、各々が持つ夢の実現に向けて力を合わせ支え合う役割と責任を認め、互いを信頼し合える関係を築き上げていきます。



赤井親子による装花

日 時：1月6日(木) 18:00～20:00
場 所：ホテルニューオータニ大阪2階
(鳳凰の間)
参加者：計画 704名(現役442名・
OB261名・大阪市長)
結果 652名(現役422名・
OB229名・大阪市長)

会員相互親睦事業の企画と実施 (新年名刺交換会)

歴史を積み重ねてきた人びとの経験則と本年度の運動に対する方向性を感動と共に共有する場を創り出し、一人ひとりの心に運動への期待感と挑み続けようとする前向きな意欲を沸き立たせました。
【工夫した点】当日使用した装花は、翌日より 1 週間大阪府役所 1 階メインロビーに展示した。特に成人式の日には 20 歳前後の若者に対し、赤井親子が創り上げた装花を通じて、経験則を継承していくことの大切さを感じてもらえる機会となり、大阪市民に広く伝えることが出来た。



田中眞紀子先生によるご講演

日 時：7月29日(金) 一部17:30～
18:30 二部 18:45～20:30
場 所：リーガロイヤルホテル大阪3階
(光琳の間)
参加者：計画 631名(現役450名・
OB180名・大阪市長)
結果 580名(現役389名・
OB190名・大阪市長)

会員相互親睦事業の企画と実施 (OB 現役交歓会)

過去から脈々と引き継がれてきた誇らしい歴史と伝統を体感できる場を創出することで、まちに関わる活動に対する誇りと連綿と続く多様な運動展開を、次の世代に繋いでいこうとする前向きな意識を高めることが出来ました。
【工夫した点】新人メンバーの登壇では、歴史ある大阪 JC の一員となったことを実感できるよう、OB・現役メンバー共に次世代に繋いでいくという意味合いを持たせた演出を実施。





日 時：5月下旬～2012年3月迄
場 所：大阪市内小学校（312校）
参加者：計画 2,480名（対外:2,400名
（各小学校40名×60校）／対内:
70名+10名 社会人講師を実施する
JCメンバー（当委員会+他委員会）
結果 2,118名※〔対外:2,048名
（実施校20校 73クラス）／対内:
70名 社会人講師を実施するJCメン
バー（当委員会）〕※11月30日現在



日 時：8月28日（日）
上映会13：00～15：20
場 所：松下IMPホール
参加者：計画 650名（対外:550名
対内:100名）
結果 406名（対外:317名
対内:89名）



日 時：11月18日（金）19:00～21:00
場 所：リーガロイヤルホテル大阪3階
（ロイヤルホール）
参加者：計画 427名（対内:427名）
結果 388名（対内:388名）

経験則を継承するための意識と心、支え合う役割と責任を

経験則継承委員会では、先人から受け継いできた経験則を次代の人びとへ引き継いでいく意識を高め、相手の立場を受け止め尊重する心を持ち、各々が持つ夢の実現に向け力を合わせ支え合う役割と責任を認め、互いに信頼し合える関係を築いていくことを目的に運動を展開してまいりました。

まず新年名刺交換会では、先輩諸兄の経験則と本年度の運動に対する方向性の共有を図り、OB現役交歓会では、脈々と引き継がれてきた誇らしい歴史と伝統を体感できる場を創り出し、次代に繋いでいく前向きな意識を高めることができました。

そして、5年目を迎えます「フレ愛応援団2011社会人講師事業」では、私たちの仕事を通じて、多くの小学生に様々な体験をしてもらい、「支え合い助け合って生きていくことの大切さ」を伝えてまいりました。本事業は、全国会員大会（名古屋）において、青少年育成部門で見事アワードを受賞することができました。“協育は未来のまちの力なり”という室テーマのもと、まさに地域社会が一体となり、未来の宝である子ども達の夢を育む運動を展開し、互いを敬い合おうとする心を育てまいりました。

また、3月11日に発生した東日本大震災で多くの被害を受けた、震災前の石巻市を舞台とした映画「エクレールお菓子放浪記」上映会においても、さまざまな困難を乗り越えてきた先人の経験則を子ども達へと継承し、また、大人たちにも経験則を継承することの大切さを理解してもらいました。

さらに、11月度OJCフォーラムでは、一つの目標に力を合わせ果たすべき役割と責任を自覚する事業とし、一年を通じて互いを信頼し合う関係を築き上げ、「凛々しいまち大阪」を実現する土台を構築することができました。



委員長 中谷 憲正
Norimasa Nakatani

経験則継承事業の企画と実施

（フレ愛応援団 2011 社会人講師事業）※2012年3月末まで実施。

多種多様な分野で現在活躍する人たちの経験を感動と共に体感する機会を創出することで、相手の立場を受け止めて互いを敬い合おうとする心を育てまいりました。

【工夫した点】◎TOSSによる授業技術向上の為の合同勉強会を計5回実施。その他、模擬授業勉強会を計3回実施。◎すべての授業に体験型の学習を取り入れた。◎大阪市教育委員会のお力添えを得て、各地区の校長会で本事業を紹介していただいた。

経験則継承事業の企画と実施

（「エクレールお菓子放浪記」映画上映会）

感動のエピソードを次代の人びとへ伝えることが将来の夢に大きな影響を与えるということを訴えかけることで、先人としての経験則を継承していただくことを理解していただきました。

【工夫した点】◎石巻市長のご挨拶映像を上映。◎映画で主人公アキオを演じる吉井一肇さんに、アカベラで映画挿入歌「お菓子と娘」を歌って頂いた。◎閉会后、会場出口で、吉井一肇さんとJCI大阪のメンバーとで募金活動を実施。

OJC フォーラムの企画と実施

（11月度OJCフォーラム）

為すべきことを為し互いを支え合う前向きな心と一つの目標に向けて、力を結集していく熱い想いを胸に抱き、それぞれの立場を認識する機会を提供することで、果たすべき役割と責任を自覚いたしました。

【工夫した点】◎オープニング映像、理事長挨拶、講師講演



潜在力開発特別委員会

Member Potential Development Committee

委員会基本方針

潜在力開発特別委員会では、「輝かそう未来のために！スイッチ ON！！」をテーマに掲げ、自分たちのすみ暮らし働くまちに関心を持ち、身の回りで起こる事象を自分の事として捉え、人として当たり前のことを当たり前に出来る為すべきことを為す強い信念を抱き、目標を成し遂げる意欲を有し、自らが未来のまちを描くことが出来る力溢れるリーダーを創出することを目的に一年間活動してきました。



日 時：3月15日（火）
場 所：リーガロイヤルホテル大阪3階
（ロイヤルホール）
参加者：計画 450名
結果 320名



日 時：4月9日（土）・10日（日）
場 所：入会式:シティプラザ大阪
入会セミナー:勝尾寺
参加者：計画 150名
結果 125名

3 月度潜在力開発フォーラム

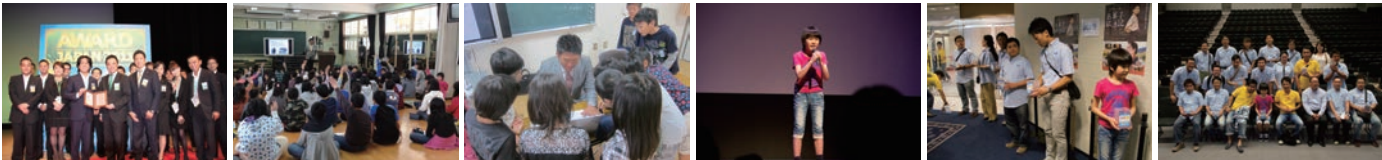
見定めた目標に向かうチャレンジ精神を有し、自らの潜在力を開花させ、まちにすみ暮らす人々の潜在力をも開花させることが出来る創造力溢れるリーダーの創出に取り組みました。

【工夫した点】講師に元野球選手・広澤克美氏を迎え、野村克也氏・長嶋茂雄氏・星野仙一氏という三大名将（監督）から学んだことをお話し頂き、真のリーダーシップについてを講義いただいた。

入会式・入会セミナー

すみ暮らし働くまちへの関心を持ち、身の回りで起こるいかなる事も自分事として捉え、為すべきことを為す強い信念を抱く大阪人の創出を目指しました。実施後のアンケートでは、セミナーによって「組織への関心」、藤井特別顧問による講演によって「JCメンバーとしての自覚」、グループディスカッションによって「大阪のまちに対する目標」、委員会懇親会において「仲間意識」が、それぞれ高まったという結果が出ました。

【工夫した点】JCの組織や歴史についてのセミナー開催。大阪のまちをテーマにしたグループディスカッションの実施。





日時：6月25日（土）
場所：整肢学院
参加者：計画 205名（委員会:55名・新人:120名・他委員会:30名）
結果 205名（委員会:56名・新人:106名・他委員会:43名）

整肢学院レクリエーションの企画と実施

自ら見定めた目標に向かって挑戦する意欲と、まちのために共に力を合わせ為すべきことを為す強い信念を育みます。実施後のアンケートでは、「ブースの企画運営に対し意欲的に活動できたか」・「事前の施設との意見交換会において自分が社会に対して何が出来るのか考えることができたか」・「社会貢献に対して意識は高まったか」・「今後のJC活動に対する士気は高まったか」という点において、それぞれ高まったという回答を90%以上頂きました。
【工夫した点】職業体験（Jザニア）というテーマで開催。体の不自由な子ども達に少しでも多くの体験をさせてあげたいという熱い思いが沸き立った。

未来のまちを描けるリーダーの創出を目指して

本年度、潜在力開発特別委員会では、「輝かそう未来のために！スイッチ ON！！」をテーマに掲げ、自分たちのすみ暮らし働くまちに関心を持ち、身の周りで起こる事象を自分の事として捉え、人として当たり前のことを当たり前に出来る為すべきことを為す強い信念を抱き、目標に成し遂げる意欲を有し、自らが未来のまちを描くことが出来る力溢れるリーダーを創出することを目的に一年間活動を行ってきました。
そのために私たちは、新入会員の入会式を通し、先人たちが創り上げてきたまちの歴史や継承されてきた文化や様々なまちに住み暮らす人びとの姿を伝え、住み暮らし働くまちへの関心を開花させる事が出来ました。そして、理事会の設営を通し未来のまちのために、多くの仲間と共に自ら積極的に先頭に立ち新たな取り組みにチャレンジをしている姿を目の当たりにする場を創り上げ、自らのまちで起こる問題を自分事として捉える姿勢に共感し、共に立ち向かうとする責任感を醸成しました。また、新人セミナーではこれまで積み重ねてきた経験を基にした価値観を抱き、同じ目標に向けて行動を共にしていく仲間たちと触れあい、物事の本質を掘み取ることの大切さを強く訴え、まちのために共に力を合わせ為すべきことを為す強い信念を育みました。さらに、整肢学院レクリエーション事業では、過去の経験や自己の立場にとらわれることなく、相手を想い取り組むことの大切さと成し遂げたときの自信と社会からの期待感を感じてもらう機会を設け、自ら見定めた目標に向かって先頭を走る積極果敢に挑戦する意欲を沸き立たせました。そして、新人企画事業では、今まで体験したことがないことへ挑戦するステージを提供することで、新しいまちの姿を描き未来のまちに煌めくクリエイティブなリーダーを創り出しました。
最後に、本年度の活動を通じて、多くの仲間とともに同じ時間を過ごし、多くの力溢れるリーダーを溢れさせることが出来ました。
本当に、本当に一年間ありがとうございました。



委員長 山路 晃誉
Akiyoshi Yamaji

STAFF

委員長 山路 晃誉	副委員長 稲見 宗彦	委員 青木 慎介	上原 英雄	吉良 俊彦	ラジコパル サッシュマル	玉城 勇人	西野 嘉一	森 馨
幹事 井上 綾	植田 耕一	新居 誠治	植松 大介	熊田 篤嗣	塩津 立人	玉山 善博	西本 真悟	門那 宏徳
坂井原 正光	大西 直	安藤 利江	牛渡 裕也	黒田 健夫	白川 洋之	田村 大作	能村 晋太郎	矢野 正治
高波 幸治	津和 邦嘉	池田 敬	宇都宮 和加人	小谷 法子	辻野 晃弘	辻野 晃弘	箸本 陽介	山本 元
細川 直人	藤井 章弘	池元 宏行	岡田 崇	小林 英彰	末廣 徳司	寺川 康治郎	濱浦 輝行	吉武 涼子
	藤重 智明	石川 智也	岡村 充	小林 雄	須山 和彦	富田 かおり	原田 崇	吉本 千春
	森本 成俊	伊田 宗樹	奥田 昌己	小山 徹	高原 一磨	富田 博文	平野 耕三	
		伊藤 勝彦	小倉 康代	佐尾 貴規	竹内 万征	中嶋 信彰	藤田 欽也	
		井上 陽介	香川 正和	酒井 七郎	田中 誠	中野 剛人	古山 久幸	
		今井 佐和子	北畑 博之	阪本 真一	谷中 克行	中村 佳織	真殿 昌美	
			金 裕珠		田原 洋司	夏山 純也	三浦 正行	

大阪プレゼンス確立グループ

Osaka Presence Establishment Group

JCI 大阪プレゼンスの 確立を！

組織の圧倒的な存在感を 国内外に発信し確立する



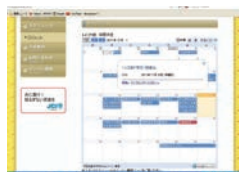
本年は、常任理事 大阪プレゼンス確立グループ 室長、また総務広報特別会議 議長として、「凛々しいまち大阪の実現」に向け邁進してまいりました。
大阪プレゼンス確立グループは、「JCI大阪プレゼンスの確立を！」をグループテーマとして掲げ、JCI大阪のプレゼンスすなわち、JCI大阪という組織の圧倒的な存在感を国内外に発信し確立することを目的としてまいりました。圧倒的な存在感とは人数だけで他を威圧する意味合いではなく、メンバーの資質向上から生まれる、JCI日本、また大阪のまちにとってなくてはならない存在であることの存在感を意味しています。そのメンバー資質の向上を目指すべく1委員会1会議体がその両翼を担ってまいりました。
まず、存在感発信委員会はLOMを代表しJCI日本で活躍するメンバーにスポットをあて、そしてその活躍する場にJCI大阪メンバーに参加促進を行い、JCI日本における資質高いJCI大阪メンバーの存在感を極めたたせ、その出向メンバーの存在をJCI大阪メンバーが誇りに思える事業を展開してまいりました。また、長年友好を培ってきました友好LOMとの交流の場を設え、JCI大阪が資質として持ちあわすホスピタリティを発揮し、JCI大阪と友好LOMとの更なる親交を深めることができました。さらに、メンバーの活躍する姿をタイムリーにホームページ等の媒体に発信し、メンバー自身の誇りや更なる行動への意識付けを一年間通じて行ってまいりました。
そして総務広報特別会議ですが、この会議体は総務と広報の両面を併せ持つ会議体として一年間活動してまいりました。特に広報の面では対外広報を担当したのですが、対外広報が対外だけに効果をもたらすものではないという点が本年度の運動のポイントです。JCI大阪メンバーが大阪のまちに対して発信する様々な運動をホームページ等の対外ツールを利用してその様子を発信し、まちの人々にJCI大阪の存在、いって言えばなくてはならない存在であることを広く認知することによって、JCI大阪メンバーの更なる運動展開へのモチベーションへと繋げることができました。そして総務の面では、次代への変化に対応すべく諸規則の整備を行い、組織をより効率的かつ機能的に運営する一助となったものと確信しております。
本年度の当グループの方向性はすべて、メンバーが為すべきこと為すべく活動できる資質の向上を目的として活動してまいりました。JCI大阪メンバーのポテンシャルは計り知れないものがあります。次年度以降もそのポテンシャルを存分に発揮できる、更なる資質向上を図って頂くことを切に願い、一年の締め括りとさせていただきます。

室長 中川 晃一
Koichi Nakagawa





日 時：6月2日(木)
場 所：ローザロッチェ
参加者：計画 34名
結果 29名



L O M間交流の推進（岡山大阪交歓会）

（ほか、岡山大阪交歓会）

互いのLOMの運動の方向性を共有し、会場にはレストラン、ローザロッチェを使用し、宴席も設営して、会議だけでは深められない懇親を図りました。限られた時間の中で、より多くの人が互いの個性を理解でき、互いのLOMの特徴がわかる工夫が必要であったということが反省点です。

【工夫した点】本年は長年続いてきた岡山JCとの交歓会に加え、金沢JCとの交歓会を実施。互いのLOMの役員同士による小規模で親睦をより深められる交流会の設営を実施。

会員向け広報の実施

（ホームページを利用した事業速報、年間スケジュールの配信）

HPにて事業速報として、対内向け事業の結果を伝え、各種事業の内容を広く知らせ、LOMの活動内容を共有することができました。Googleカレンダーの利用により、メンバー内で統一した年間スケジュールの配信を行う事が出来ましたが、委員会スケジュールなどは、予定から開催日に変更されることが多くあり、リアルタイムの情報の更新までは対応できませんでした。今後は、より定期的に情報を一括管理して、正確な年間スケジュールの管理を徹底していかなければならない、と考えます。

【工夫した点】HPによる事業速報の配信。HPでのGoogleカレンダーの利用による年間スケジュールの共有。

目的意識、責任感、連帯感、行動力を備えた存在感

存在感発信委員会では、大阪青年会議所に周りから模範とされるJCI大阪ブランドを確立することを目的として様々な事業を展開して参りました。

私たちは、京都会議、サマーコンファレンス、全国大会名古屋大会など日本青年会議所の各大会の趣旨や参加目的をメンバーにタイムリーにわかりやすく伝えながら、ひとりひとりに目的意識をもって各種日本JC事業に参加してもらえるようホスピタリティーをもって参加促進をしてまいりました。また、日本JC、近畿地区協議会、大阪ブロック協議会への出向者支援としてLOMメンバーが一堂に会するLOMナイトなどで、出向者へスポットライトをあてる場面を創りだし、158名の出向者に対しLOMを代表して出向する責任感とLOMからの期待感を溢れさせてきました。そして、岡山青年会議所と金沢青年会議所のメンバーを大阪に招き、お互いが発信するJC運動に対する想いを語り合う機会を創り、遠く地が離れながらも長い間友情を育んできた仲間との絆をさらに強いものにしました。また、明るい豊かな社会の実現を目指して発信してきた様々な運動をタイムリーにメンバーに伝えていく事で、様々な事業の意義・目的を共有し、900余名所属するメンバーのベクトルを合わせ、LOM内の力強い連帯感を築いてまいりました。本年の全国大会名古屋大会では400名を超えるメンバーに参加いただきJCI大阪の存在感をメンバー自身にも、対外メンバーへも存分に発揮する事ができました。本年度に引き続き、メンバーには日本JC事業に目的意識をもって意欲的に参加していただき、また、出向者も多数出ていただき、高い目的意識、責任感、強い連帯感、積極果敢な行動力を備えたJCI大阪の存在感を対内対外に発信し続けていいただきたいと思えます。



委員長 山本 修史
Shuji Yamamoto

存在感発信委員会

Effective Presence Delivery Committee

委員会基本方針

私たちは、理想のまちの実現に向けた高い目的意識を抱き、果たすべき役割に対する責任感に溢れ、同じ志を実現していこうとする仲間同士で連帯感を持ち、何事にも積極果敢に取り組む行動力を備えた周りから模範とされるJCI大阪ブランドを確立していきます。



日 時：各日本JC大会
場 所：各LOMナイト
参加者：計画 158名
結果 118名



日 時：9月29日(木)～10月2日(日)
場 所：名古屋国際会議場
参加者：計画 323名
結果 462名

日本JC出向者の支援（LOMナイト）

LOMナイトでは例年に比べ一人ひとりにスポットライトを当て、また、各出向先委員会の概要を紹介し、出向者に対し組織からの期待感を伝えることができました。また、日本JCの大会中は出向者自身が出向先の担いで出席できない可能性もあり、出向者のスケジュールを把握しておくことが必要だと実感しました。

【工夫した点】LOMナイトでの制限時間内での出向者紹介、出向先委員会への表敬訪問

日本JC事業への参加促進（全国大会名古屋大会）

（ほか、京都会議、サマーコンファレンス、近畿地区協議会会員大会）

当初予定していた人数より大幅に超え、462名の登録を得た。最終ファンクションの大会式典では400名近い人数が集まり大阪青年会議所の存在感を全国に発信することができた。各種セミナー、フォーラムへの参加人数が全体登録人数に比べ少なく、日本JC事業の運動を伝えきることが出来なかった。次年度は、各種フォーラムへの内容や見どころをよりわかりやすく伝え、参加促進と参加人数の把握をするべきです。

【工夫した点】参加者マニュアルの電子配信、各種フォーラムセミナーの情報配信、LOMナイトの実施





総務広報特別会議

General Public Relations Special Committee

委員会基本方針

私たちは、一人ひとりの能力を如何なく発揮でき、世のために積極的に関わる責任感に溢れ、人びとが真に求めるニーズをタイムリーに捉え、住み暮らし働く人びとに夢を拡げ、己を律し率先して毅然と行動する、時代や社会に必要とされる組織の存在感を確立します。



日 時：1月15日（土）
場 所：池田不死王閣
参加者：計画 400名
結果 385名



日 時：8月11日（木）～28日（日）
場 所：大阪市内各所
参加者：

池田会議

池田会議における OJC フォーラムでは原田武夫先生をお招きし、情報の持つ力、その処理能力のスキルアップに努めなければならないとのお話を頂戴しました。フォーラムに引き続き定時総会を運営致しました。

会員外向け広報の実施

対外情報発信ツールであるホームページを活用し、実施事業の速報を配信。また集約事業（OSAKA キャッスル☆ハッスル!!）における対外広報として、事業内容を記載したうちわを街頭にて配布致しました。



日 時：1・3・10月
場 所：OJCフォーラム会場



日 時：毎月
場 所：事務局

総会の準備と対応

1月、3月、10月に開催しました総会の準備とその運営を致しました。

財務運営に関する準備と調整

毎月行われる財務審議会の設営とその運営補助を実施致しました。

己を律し、率先して毅然と行動するメンバー・組織に

総務広報特別会議としまして、「JCI 大阪プレゼンスの確立を」を旗印に、時代や社会に必要とされる組織の存在感を確立することで、「漂々しいまち大阪の実現」すべく活動してまいりました。

その実現のために当会議体は総務と広報の2つの面で活動してまいりました。一人ひとりの能力を如何なく発揮でき、世のために積極的に関わる責任感に溢れたメンバーが所属する組織を実現するために、総務面での池田室会議、年度3回行われました総会の設営と運営、財務運営に関する準備と調整、定款諸規則の整備などを行ってまいりました。特に池田室会議では総会時において各委員長が委員会の運動の方向性をプレゼンテーションし、また、懇親会時には映像を用いた委員会の特色を発信したことによって、JCI 大阪メンバーが組織の目指すべき方向性について理解を深められ、また他委員会がどのような運動を展開するのかを理解できました。また人びとが真に求めるニーズをタイムリーに捉え、住み暮らし働く人びとに夢を拡げることができるメンバーが所属する組織を実現するために、広報面でのホームページにおける会員外向け広報を実施してまいりました。ホームページ立ち上げは当然のことながら、JCI 大阪が実施した事業の様子を即座に上げ、対外の方に向け広報を展開してまいりました。そして8月に行われました集約事業の対外向け広報として、その内容を記載したうちわを飲食店、街頭において配布しその動員に大きく貢献しました。

上記総務と広報の両面を並行して実施した結果、己を律し率先して毅然と行動するメンバーへと資質が向上し、資質高いメンバーの集まる組織の存在感が確立できたものと確信しております。



議長 中川 晃一
Koichi Nakagawa

STAFF

委員長 中川 晃一	副委員長 赤阪 靖之	委 員 赤木 真也	乾 二起	北村 太作	竹内 孝博	畢 志鵬
幹 事 池上 時治郎	税所 貴一	渥美 宙	岩崎 圭祐	北山 以珠美	谷 美輝	宮秋 賢三
高井 重樹	出口 貴之	新居 宏実	上中 雅嗣	神島 聡介	恵山 幸由	武蔵 国弘
恒元 直之		井川 慶子	大谷 耕司	小林 章浩	長井 雅開	森實 隆一
		池田 健志	沖 寧能	佐藤 孝英	中島 文裕	柳本 顕
			金川 佳永	新宅 紀文	中野 裕司	山下 聖



1月 15日
池田市 不死王閣

講師：原田武夫氏
(原田武夫国際戦略情報研
究所 代表／元外務省官僚)



池田会議 総会フォーラム

3月 15日
19:00～21:00
リーガロイヤルホテル

講師：広澤 克実氏



潜在力開発フォーラム
～輝かそう！明るい未来にスイッチオン！～

4月 15日
19:00～21:00
大阪府立体育館

Licana、TOZY、
FLIGHT、磯村 純衣、
清水 ひろみ、Sarasa、
LOVE ONE ☆ DRAFT



RRT MUSIC FESTA in
OSAKA2011

6月 11日
13:00～16:00
森ノ宮ビロティホール

基調講演1 講師：間 寛平氏
基調講演2 講師：小田 兼利氏
(日本ボリグル(株) 代表取締役会長)



未来創造フォーラム

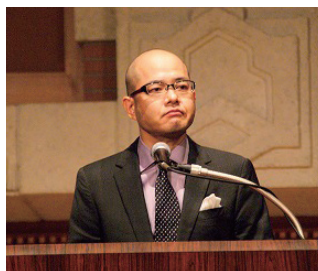
8月 26日
ホテルニューオータニ



OSAKA キャッスル☆ハッスル!! 決起集会

10月 20日
19:00～21:00
帝国ホテル

講師：岩崎 夏海氏
(「もしも高校野球の女子マネー
ジャーがドラッガーのマネジメ
ントを読んだら」の著者)



2月 18日 19:00～21:00 サンケイホール・ブリーゼ

パネリスト(五十音順):
民主党 梅村 さとし氏 社民党 小沢 福子氏
日本共産党 くち原 亮氏 公明党 辻 よしたか氏
大阪維新の会 代表 橋下 徹氏 自由民主党 柳本 顕氏
コーディネーター:
近藤 光史氏(タレント、元毎日放送アナウンサー)



政策討論会「選択しませんか？私たちの未来を！」

5月 21日
13:00～14:00
大阪府立体育館

講師：池谷 幸雄氏



輝 KID's フォーラム

7月 30日 17:30～
リーガロイヤルホテル

講師：田中 真紀子氏
(衆議院議員)



2011 年度 OB 現役交歓会

9月 21日
18:00～21:00
リーガロイヤルホテル



コーカスミーティング

11月 18日
リーガロイヤルホテル

講師：野崎 勝義氏
(元阪神タイガース球団社長)



12月6日
リーガロイヤルホテル



本年も12月6日リーガロイヤルホテルにて、大阪青年会議所の1年の締め括りである会員大会を現役メンバー、OBを含めて約600人が参加して開催いたしました。

本年は例年に以上にアワード、卒業式がメンバーの心に残るように左右開きの巨大スクリーン、映像もCGを駆使するなど演出に工夫を凝らしました。また、卒業式では歌手の杏里さんを迎え式に花を添えていただきました。

2011年度 会員褒賞

理事長特別賞

出口 貴之（総務広報特別会議）
葛井 啓三（大阪的外交推進委員会）

優秀委員会賞

経験則継承委員会
存在感発信委員会

最優秀委員会賞

民意確立委員会

優秀事業賞

未来選択事業の企画と実施
（未来選択実践委員会）
共感教育事業の企画と実施
（共感教育実践委員会）

最優秀事業賞

行政推進事業との連携
（「凛々しい民」創造委員会）

優秀会員賞

藤井 章弘（潜在力開発特別委員会）
竹内 健祐（揺るぎない資産確立委員会）
田口 薫（世界連携推進委員会）
大野 育生（未来選択実践委員会）
八木 弘晃（「凛々しい民」創造委員会）
日野岡 信一郎（経験則継承委員会）
税所 貴一（総務広報特別会議）

最優秀会員賞

草刈 健太郎

優秀新人賞

坂井原 正光（潜在力開発特別委員会）
森西 聖（大阪的外交推進委員会）
橋本 充雄（経験則継承委員会）
恒元 直之（総務広報特別会議）
神農 将史（存在感発信委員会）

最優秀新人賞

高橋 康智（「凛々しい民」創造委員会）

優秀出向者賞

安藤 利江（潜在力開発特別委員会）
小澤 高行（世界連携推進委員会）
村尾 尚太郎（世界連携推進委員会）
祖慶 良法（大阪的外交推進委員会）
鈴木 寛（民意確立委員会）
恵山 幸由（総務広報特別会議）

最優秀出向者賞

櫻井 多美（民意確立委員会）

功労賞

臼井 将勝、山路 晃誉、三戸 理、
山内 基正、臼倉 義尚、谷間 修裕、
児島 恵美子

特別功労賞

池田 太八、藤井 俊成

月例会多年皆出席賞

2年間
児島 恵美子、谷間 修裕、由本 浩司

3年間

臼倉 義尚、小倉 康代、櫻井 多美

4年間

山路 晃誉

5年間

岡田 智文

6年間

安封 由紀

8年間

池田 太八、臼井 将勝、藤井 俊成

11年間

藤立 勇人



プレジデンシャルリース伝達式



卒業式



新聞掲載



大阪日日新聞 2月20日 政策討論会



大阪日日新聞 2月20日 政策討論会



大阪日日新聞 6月12日 未来創造フォーラム



大阪日日新聞 5月22日 第30回大阪市長杯わんぱく相撲大会



大阪日日新聞 6月12日 未来創造フォーラム



産経新聞 8月8日 RRTスマートサイクリスト事業

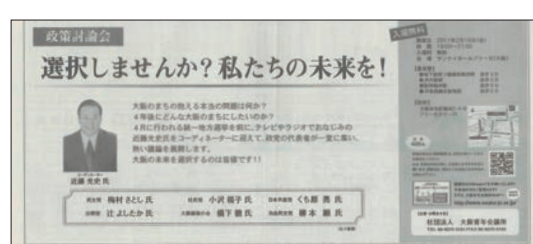


産経新聞 9月30日 ピース・カンファレンス2011

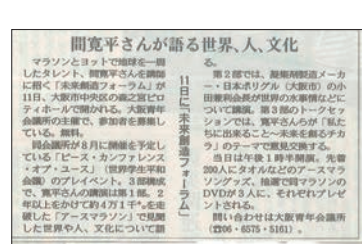
新聞広告



産経新聞 2月10日 政策討論会



産経新聞 2月15日 政策討論会



産経新聞 6月10日 未来創造フォーラム

Web にての情報発信



2月18日 政策討論会

大阪城灯りの景★
「大阪市」「産経ニュース」「財団法人大阪21世紀協会」「OSAKA-INFO」・
「じゃらん」・「オオサカシンニュース」・「JR おでかけネット」・「地球の歩き方
国内旅行情報サイト」など多数の Web サイトにて情報発信



11月12日 大阪市長選挙 公開討論会

雑誌掲載



関西ウォーカー 4月6日～4月19日
ボランティア団体一覧に「各地青年会議所」として紹介される



Meets Regional 9月号
OSAKA キャッスル☆ハッスル!!

Meets Regional 11月号
OSAKA キャッスル☆ハッスル!!

制作物



ポスター
RRT MUSIC FESTA in OSAKA 2011



中吊り (B3) ★
城灯りの景



うちわ
OSAKA
キャッスル☆ハッスル!!



B1 ポスター JR 用★
城灯りの景



告知看板★
城灯りの景
近隣10カ所に設置

卒業理事：臼井 將勝／山路 晃誉／三戸 理／山内 基正／臼倉 義尚／谷間 修裕／児島 恵美子

理事になって本当によかった。

人生、だまされてなんぼっ！

司会：2011年1年間理事としてお疲れさまでした。理事もしくは委員長として、1年間いかがでしたか？

山内：とにかく、1年間、いろんな経験させて頂きました。理事でないと出来ないことばかりだったと思います。

児島：私もそうですね。特に、わんぱく、フォーラムの同時開催。これは、いままでにない取り組みでしたので想い入れが強くありました。実際、終わった後に泣いちゃいましたから。

山路：僕はプレッシャーの連続でした。

谷間：とにかく楽しかったですね。副委員長では絶対経験できなかったことをできた1年だったと思います。

司会：楽しかった、という意見が多かったですが、具体的にどの辺りですか？

谷間：自分の想いが形になる、という点でしょうか。予定者の段階で事業計画として考えたことをスタッフやメンバーに伝えて広がって。

臼倉：やった成果をオープンに広く伝えられることが満足ですね。

児島：楽しかったというのとは少し違いますが、自分のキャパシティは相当広げられましたね。

山路：そうそう。結構、無理矢理広げられた感じでしたけど（笑）

三戸：答弁台とか鍛えられましたよ。

児島：私は普段講師で、300人相手に講義をしたりするので話す事に慣れているはずなのに、20人の理事の前の答弁台で、全然答えられなかったですからね。

山内：答弁台は、本当に怖かったです。

谷間：スタッフとかみんなの想いを背負っちゃうから、ひとつひとつの発言の重みで怖くなってしまっただよね。

臼井：意見を聞く側は、いろんな角度から客観的に聞いてるだけなんだけど。

山路：もし、理事になっていなかったら何になったかな？って、時々思うんですよね。

児島：私は、普通に仕事しています（笑）。

臼井：何にも興味の湧かない、つまらない人間になっていたかも。

山内：理事になってなかったからといって、売上が倍になる訳ではなかったと思うわ。

司会：話がそれてきたので……。理事もしくは委員長で一番思い出に残っていることってありますか？

臼井：2006年グローバルビジネス創造委員会の委員長をやった時にTOYP事業を担当したんですが、これは忘れられませんね。12月の最後の打ち上げの時なんか、委員長冥利に尽きましたよ。パーッと泣いちゃいましたし……。

司会：臼井さん、恐キャラのくせに泣き過ぎですからね。2009年の理事サンクスとか……。

山路：2010年のシンガポールのASPACとか（笑）。

谷間：僕はなにわ淀川花火大会ですね。入会以来、見てるだけでしたが、自分が委員長として関わるようになって初めて、裏でこんな事があるんだ、こんな風に人が動いていたんだ、こんな歴史があったんだ、というのを知って。今年の花火の一発目が上がるのを見て、言葉になりませんでしたね。

司会：本当に、理事や委員長やって良かったね。

山内：僕は理事選でてなかったら、結婚してなかったかも？

司会：ということ？

山内：コーカスで全然受けなくて、飲みに行ってその流れで結婚ですからね。理事選に感謝しています。

一同：おめでとー。

三戸：まちがいなく、理事はやって良かった。副委員長時代は、どこから手をつけたらよいか分からない事もあったけど、今は、あれこれ段取り良く、順序つけられるようになりました。

臼井：委員長はメンバーにとって光輝く存在であって欲しいですね。みんなはカッコいい委員長だったと思うよ。

司会：卒業してからのプランとかありますか？ 選挙出るとか？

臼倉：ゆっくり休みます。

三戸：時間が余って仕方ないかも……。

山内：健康な毎日を暮らします。

児島：仕事します。

山路：とにかく新しいことにチャレンジしたいです。

臼井：それはできるかもね。要領よく仕事ができるようになったからね。

谷間：卒業しても残るメンバーのために拡充に頑張ります。

一同：エライ。卒業理事の鏡だ。

山路：ホントに今年もありがとうございました。

司会：将来の理事候補であるメンバーの皆さんに伝えたい事ありますか？

谷間：「1人にとっては小さなことでも、人類にとっては大きな一歩」みたいな有名な言葉があるんですが、JCでもみんなそれぞれやっていることは小さなことでも、みんなに役立っているということ、やったことが必ず次につながっていることを忘れないで欲しいですね。

山路：大阪JCのメンバーであることに誇りを持ってほしいですね。

三戸：理事は大変だけど、1年の終わりの感動は、大変な分だけ大きいですからね。最後の打ち上げで全て癒されますよ。

山内：僕は、選挙出るときにある先輩に声をかけられたんです。「俺

が大事に思っている理事会を、大事に思ってくれる後輩に託して行きたい。」今度は、自分が言ってあげたいですね。

谷間：理事になることは高いハードルとは思わないんですね。幹事・副委員長までやったところでJCの真の面白さは見えない、どうせやるなら理事までやらないと。

司会：そのためには、どうしたら良いですか？

児島：まずは関わる事ですね。

谷間：他の頑張っているメンバーを見ることで、自分も手を差し伸べたくなったりするし、自分にできることはないかと考えも浮かんでくる。

山路：理事や委員長はメンバーのみんなに仕事を回していかなくてはならないけど、メンバー自身も、自分の仕事を掴みに行こうと努力しないと。

三戸：待ってるだけではダメ。

臼倉：それで築き上げられる人間関係は財産ですからね。

山内：経験は人生の財産、ですね。

臼倉：声をかけられたら、行くべき、と。

山路：とにかく一回なんでもいいからやってみて欲しい。

臼井：そう。うまいことだまされてください。だまされてなんぼ(笑)

一同：爆笑

司会：それ、タイトルで頂きます（笑）

山路：食わず嫌いはダメ。

臼井：終わった後の達成感は、やった委員長にしかわからないですよ。

司会：今日は、会員大会も終わり、年末のお忙しい日にありがとうございました。

(2011年12月13日 理事長卒業式会場控室・リーガロイヤルホテル大阪にて)

答弁台は、
本当に怖かった……。
(山内基正)わんぱく、フォーラムの
同時開催をやり終えた後、
泣いちゃいました。
(児島恵美子)みんなはカッコいい
委員長だったと思うよ。
(臼井將勝)自分のキャパシティを
無理矢理広げられた感じ
でした。
(山路晃誉)まちがいなく、理事は
やって良かった。
(三戸理)幹事・副委員長までやったところで
JCの真の面白さは見えない。
どうせやるなら理事までやらないと！
(谷間修裕)(卒業後は)
ゆっくり休みます……。
(臼倉義尚)

為すべきことを為す

池田太八



理事長
池田 太八



専務理事
中川 翼



直前理事長
近藤 康之



監事
出口 憲作



副理事長
杉野 利幸



特別顧問
藤井 俊成



副理事長
白井 将勝



副理事長
草刈 健太郎



世界連携推進委員会
三戸 理



地域資産確立室
山本 樹育



揺るぎない資産確立委員会
北野 嘉一



大阪の外交推進委員会
山内 基正



民意主導推進室
阪本 祐浩



未来選択実践委員会
臼倉 義尚



協育推進室
善野 良



「凛々しい民」創造委員会
谷間 修裕



経験則継承委員会
中谷 憲正



潜在力開発特別委員会
山路 晃登



大阪プレゼンス確立グループ
総務広報特別会議
中川 晃一



存在感発信委員会
山本 修史

編集後記

2011 年度 社団法人大阪青年会議所は、池田太八理事長の掲げる「凛々しいまち大阪の実現！～為すべきことを為し、共に新たな歴史を刻もう～全ては未来のために」をスローガンに、1年間様々な運動を展開しました。多くの市民の皆さまのご協力をいただきながら、全力で取り組んだ活動の成果を、多くの皆さまに見ていただき、理解を深めていただけるよう、また次年度以降さらなる成果をあげ続けるための、引き継ぐ手段のひとつとして 2011 年度アニュアルレポート（事業報告書）を作成いたしました。作成にあたっては、多くの皆さまに JCI 大阪の活動を理解していただけるように編集いたしました。

われわれの活動をご覧いただき、その思いをご理解いただき、さらに大きな広がりとなれば幸いです。2011 年度 社団法人大阪青年会議所は、会員名簿や基本資料をデジタル化したり、月例会から公益性の高い OJC フォーラムに変えるなど様々なチャレンジを行いました。先輩達が絶やすことなく灯し続けた「社会奉仕の精神」を引き継ぎ、未来を切り拓く変革の能動者として、さらに大阪のまちに貢献してまいる所存です。最後に、我々の運動にご理解をいただき、様々な事業や活動を支えていただきました大阪市をはじめとする行政機関・関係諸団体・企業・市民の全ての方々に御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

総務広報特別会議 議長 中川晃一

企画・編集 総務広報特別会議

発行 社団法人 大阪青年会議所

〒 552-0007 大阪市港区弁天 1 丁目 2 番 30 号オーク 4 番街 401 号

TEL 06-6575-5161 FAX 06-6575-5163

<http://www.osaka-jc.or.jp>

発行日 2012 年 1 月／制作 株式会社どりむ社／印刷 株式会社スマイル